

学園の臨床研究

Clinical Study of Campus Life

〈富山大学保健管理センター紀要〉

発達障害学生に対する支援のあり方	西村優紀美……………	1
入学時および就学2ヶ月後の健康調査の有用性の検討	中川圭子、宮田留美、松井祥子……………	19
本学学生におけるBMI分類ごとの血圧、生活習慣の特徴	岩田 実、高倉一恵、野口寿美、松井祥子、山本善裕……………	23

***** Contents *****

Yukimi Nishimura :		
SUPPORT FOR UNIVERSITY STUDENTS WITH DEVELOPMENTAL DISORDERS	……………	1
Keiko Nakagawa, Rumi Miyata, Shoko Matsui :		
Usefulness of health investigation at the entrance and 2 months after	in university freshmen.	19
Minoru Iwata, Kazue Takakura, Hitomi Noguchi, Shoko Matsui, Yoshihiro Yamamoto :		
Comparison of blood pressure and lifestyle in the university student	of sugitani campus divided according to BMI.	23

学園の臨床研究 Clinical Study of Campus Life

No.18 March 2019

〈富山大学保健管理センター紀要〉

- 発達障害学生に対する支援のあり方 西村優紀美…………… 1
- 入学時および就学2ヶ月後の健康調査の有用性の検討
中川圭子、宮田留美、松井祥子…………… 19
- 本学学生におけるBMI分類ごとの血圧、生活習慣の特徴
岩田 実、高倉一恵、野口寿美、松井祥子、山本善裕…………… 23

※※※※ Contents ※※※※

Yukimi Nishimura :

- SUPPORT FOR UNIVERSITY STUDENTS WITH DEVELOPMENTAL DISORDERS
…………… 1

Keiko Nakagawa, Rumi Miyata, Shoko Matsui :

- Usefulness of health investigation at the entrance and 2 months after
in university freshmen. …………… 19

Minoru Iwata, Kazue Takakura, Hitomi Noguchi, Shoko Matsui, Yoshihiro Yamamoto :

- Comparison of blood pressure and lifestyle in the university student
of sugitani campus divided according to BMI. …………… 23

発達障害学生に対する支援のあり方

西村優紀美

SUPPORT FOR UNIVERSITY STUDENTS WITH DEVELOPMENTAL DISORDERS

Yukimi Nishimura

(Center for Health Care and Human Science Toyama University)

I 発達障害の特性

富山大学は、2007年から発達障害のある学生の支援を開始しました。その後、身体障害のある学生の支援も行うようになり、障害のある学生の支援を一体的に行う部署として大学に周知されるようになりました。

をしていきたいと思っています。

発達障害の特性とは何か、大学生に特有の表れ方と困難さとはどういうものかを具体的にお伝えしていきます。そして、そのような障害特性のある学生に対して、どのように支援を行っていくのかを話していきたいと思っています。最終的には、支援者として、学生支援とは何を目指しているのかをお話できればと考えています。

Today's talk

1. Characteristics of developmental disorders
2. Steps undertaken before support is provided
3. Significance of interviews with students with developmental disorders
4. Support during transition from study to work



2

話の流れ

1. 発達障害の特性
2. 支援までの流れ
3. 発達障害学生に対する面談の意義
4. 「学ぶ」と「働く」を支える支援



3

本日は、テーマに沿って、次のような流れで話

主な神経発達障害 (DSM-5) (Neurodevelopmental Disorders)

注意欠如・多動性障害 AD/HD	限局性学習障害 SLD
自閉症スペクトラム障害 ASD	発達性協調運動障害 DCD
知的能力障害 ID	

© 井野元 不登校の子どもたちに関する基本的な情報～発達性協調運動障害～ チャールズ・ヘリス 13-408-409.2015.

主な神経発達障害 (DSM-5)

注意欠如・多動性障害 AD/HD	限局性学習障害 SLD
自閉症スペクトラム障害 ASD	発達性協調運動障害 DCD
知的能力障害 ID	

© 井野元 不登校の子どもたちに関する基本的な情報～発達性協調運動障害～ チャールズ・ヘリス 13-408-409.2015.

Characteristics of SLD	
General characteristics of the disability <ul style="list-style-type: none"> Generally, the ability to understand, etc., is not affected and those with SLD do not have a low IQ. Only a particular ability or skill is affected. May not be able to read letters/characters, words, or sentences with accuracy or may take a long time to read; difficulty reading and understanding what one has read Difficulty writing letters/characters or sentences Difficulty understanding the concept of a number, learning about numerical values, or learning how to do calculations; difficulty with reasoning using numbers 	Difficulties that university students with SLD frequently have <p>Frequently, university students with SLD:</p> <ul style="list-style-type: none"> cannot copy from the board find it difficult to finish exams on time take a long time to read cannot be on time or keep to time schedules find it difficult to read and write kanji or the alphabet cannot write neatly have a pencil grip that is too weak (or too strong)

SLDの特性	
一般的な障害特性 <ul style="list-style-type: none"> 一般的に理解力などに遅れはなく、IQは低くないのに、特定の能力だけが実行困難 文字や単語、文章を読むときに正確でなかったり、速度が遅かったりする。読んで意味を理解することが難しい。 文字を書くことや文章を書くことが難しい。 数の概念、数値、計算を学ぶことが難しい。数を使って推論することが難しい。 	大学生にありがちな困難さ <ul style="list-style-type: none"> 板書を写すことができない。 時間内に試験問題の解答をすることが難しい。 読むことに時間がかかる。 時間に間に合うよう行動できない。 漢字やアルファベットの読み書きが難しい。 読みやすい文字が書けない。 筆圧が弱い(あるいは強い)

まず、発達障害の特性について話します。

「発達障害」は、次の4つの特性をいいますが、それぞれに異なる状態像ですが、特性はこの図のように、複数重なって現れることがあります。

限局性学習障害 (SLD) は、次のような特性のことを言います。表の左側には、一般的な障害特性を表し、表の右側には、大学生にありがちな困難さを表しています。一般的な特性としては、理解力などに遅れはなく、IQは低くないにもかかわらず、特定の能力、たとえば、書くことだけが苦手だとか、読むことだけが苦手といった特定のことが難しい特性のことをいいます。大学生では、板書を時間内に書き写すことができないとか、時間内に試験問題の解答をすることが難しいなど、授業に直接関わってくる問題が多く見られます。

Responding to the characteristics of SLD

- The extent to which those with SLD experience difficulties varies. It is necessary to gain an awareness of the extent to which one finds something difficult and the extent to which one can deal with the difficulty. It is important that one considers the kinds of measures that one could take while studying and to consider the kinds of accommodations that one would need to request from the university.

Responding to the characteristics of SLD

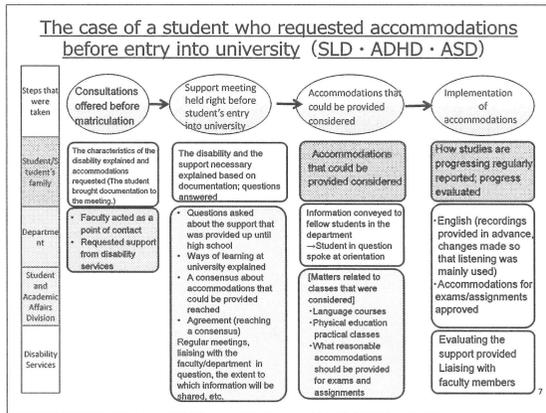
- For dyslexia, the use of text-to-speech readers may provide a solution.
- For dysgraphia, it may be possible to deal with the difficulties by permitting the use of PCs or iPads, extending deadlines, or allowing extra time for exams.
- A measure that those who experience difficulties with listening can take when receiving instructions is to note down and confirm the things that were said. After receiving the instructions, the student in question will read out loud what they have noted down and will have an instructor (or TA) check whether something was missed. In addition, the student in question may be permitted to record lectures.

SLDの特性への対処

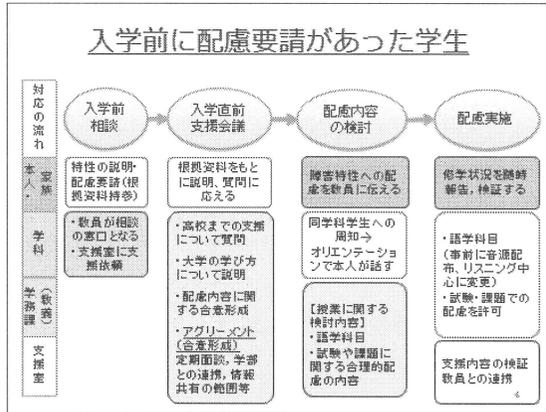
- SLDの困難さの程度はさまざまである。どの程度苦手なのか、どの程度まで自分が対応できるかを知る必要がある。学習の際に自分でどのような工夫ができるか、また、大学に対してどのような配慮申請が必要かを考えることが重要。
- 読字障害は、読み上げソフトの使用で解決することもある。
 - 書字障害は、パソコンやiPadの使用許可、提出期限(試験時間)の延長も可能。
 - 聞くことに難しさがある人は、指示を受ける時には「メモ」と「確認」を行う。指示を受けた後、メモに書いた指示された内容を読み上げて、聞き漏らしがないかを教員(TA)に確認してもらう。講義の録音を許可する場合もある。

SLDへの対処で大切なことは、学生自身がどの程度苦手なのかを知ることと、どの程度まで自分で対処できるのかを知ることです。また、学習の際に自分でどのような工夫ができるか、また、どのような配慮申請をする必要があるのかを考えることが重要です。配慮内容は、個々の学生の障害の状況によって異なりますが、読字障害には「読

み上げソフト」を活用し、書字障害には「パソコン、iPadの使用許可」、「提出期限の延長」など、障害特性に対応した配慮が挙げられます。



教員を中心に支援室スタッフも加わって本人との支援会議を行います。根拠資料は、診断書や心理検査結果、高校での支援について書かれたものですが、そのまま大学で行うことができない場合があります。大学からは、「大学での学び方の説明や支援に関する情報」を与え、大学での支援に関する合意形成を行います。この学生の場合、語学科目に関しては、事前に音源配布してもらい、リスニング中心の授業を選択しました。また、試験やレポートなどの課題では、ひらがな表記でも評価対象になることが配慮となりました。この学生は読みは優れており、一般の人の2〜3倍の早さで読み、理解することができます。成績は非常に優秀で、将来的には一般就職で企業に就職したいという願いをしています。



Characteristics of ADHD	
General characteristics of the disability <ul style="list-style-type: none"> Hyperactivity <ul style="list-style-type: none"> Fidgeting or other movements that do not have a purpose Restlessness Impulsivity <ul style="list-style-type: none"> Says things without thinking Seeks strong sensory stimulation (sounds, light, shikohin (e.g., alcohol, tea, coffee, and tobacco), gambling, etc.) Carelessness <ul style="list-style-type: none"> Makes careless mistakes at work Forgets to bring things or loses things often 	Difficulties that university students with ADHD frequently have <p>Frequently, university students with ADHD:</p> <ul style="list-style-type: none"> cannot meet the deadlines for completing important procedures make many careless mistakes often leave things behind or lose things cannot keep important promises make far-fetched excuses can intensely focus but find it difficult to repeat the same thing continually get distracted by surrounding sounds and cannot concentrate in class cannot prioritize when there are multiple tasks and fall into a state of panic

一人のケースを紹介します。この学生はSLDの診断がある学生です。中学生の時に診断があり、本人も障害に関する説明を受けています。中学・高校でも配慮を受け、大学に入学しました。大学入試センター試験と大学の個別試験で、配慮申請を行い、入学後も学部で配慮願いを提出してきました。

この表は、左から右へと対応の流れが示されています。また、縦軸には「本人と家族」、「学科」、「教養教育」、「支援室」となっており、それぞれがどのように担当し、支援内容を決めていったのかが書かれています。まず、入学が決まったら、授業が始まる前に、本人が根拠資料をもとに自分自身の特性について説明をします。大学は、学部

ADHDの特性	
一般的な障害特性 <ul style="list-style-type: none"> 多動性 <ul style="list-style-type: none"> 首を揺すりなど目的のない動き 落ち着かない態度 衝動性 <ul style="list-style-type: none"> 思ったことをすぐに口にしてしまう 強い感覚刺激を求める(音・光・嗜好品・賭け事等) 不注意 <ul style="list-style-type: none"> 仕事などでケアレスミスをしてしまう 忘れ物やなくし物が多い 	大学生にありがちな困難さ <ul style="list-style-type: none"> 重要な手続きの期限を守ることができない ケアレスミスを何度もしてしまう 持ち物を頻りに忘れたり、なくしてしまう 大切な約束を破ってしまう わかりやすい言い逃れを言うことがある 瞬発力はあるが、継続的に同じことを繰り返すことが苦手 周りの音が気になり、授業に集中できない 複数課題の優先順位がつけられずパニックになる

注意欠如・多動性障害 (ADHD) の特性についてまとめてあります。一般的な特性としては、「多動性」「衝動性」「不注意優勢」の三つのタイプが

あります。大学生にありがちな困難さで代表的なものを挙げています。たとえば、「重要な手続きの期限を守ることができない」、「ケアレスミスをしてしまう」、「大切な約束を破ってしまう」などがあります。「複数の課題の優先順位がつけられない」というようなことがあって、なかなか単位が取れないということもあります。

ADHD の特性は素晴らしい能力として発揮されることがあります。「脳が多動」である点をうまく活用すれば、独特の視点や豊かな発想を生み出す原動力になります。「衝動性」は、正しく発揮されることが前提ですが、思い立ったらすぐに行動し、試行錯誤することでより良い成果にたどり着きやすくなり、評価につながります。ADHD は、自分の好きな分野や得意な分野ではミスが少なくなるという特徴があります。つまり、自分の興味と一致する分野では弱点が見えづらく、優位な能力を発揮しやすくなるのです。

Responding to the characteristics of ADHD

- Using tools to manage schedules
 - Planners, calendars on mobile phones, alarms, Google Calendar shared with student's family, timers, etc.
 - Having the people around them speak to them
- Deciding on a place to put the things needed for going out
- Taking a look at their environment → Ensuring that they are in an environment in which they can study
 - Library, seminar rooms, cafes, living room at home, their own rooms at home
 - Tidying up around their desks, restricting access to the internet, etc.
- Learning how to respond when feeling frustrated
 - Going for a walk, listening to music, going jogging, going swimming, dimming the lights in the room, etc.
- Making sure that they have someone to talk to when they face difficulties
- Considering seeing a doctor (taking medication)

10

ADHDの特性への対処法

- スケジュール管理のために道具を活用する
 - スケジュール帳、携帯電話のスケジュール、アラームの利用、家族共有のGoogleカレンダー、タイマー等
 - 周囲の人に声をかけてもらう
- 出かける時に必要な物は、置く場所を決めておく
- 環境の見直し→勉強できる環境を確保する
 - 図書館、ゼミ室、喫茶店、家のリビング、自分の部屋
 - 机の周りをすっきりさせる、ネット環境を制限する等
- イライラしたときの対処法を知る
 - 散歩、音楽を聴く、ジョギング、水泳、暗い部屋等
- 困った時に相談できる人を作っておく
- 病院受診（服薬）も視野に入れる

9

Advantages resulting from the characteristics of ADHD

- If the fact that "the brain is hyperactive" is made good use of, it will act as a driving force for developing unique viewpoints and coming up with rich and varied ideas.
- "Impulsivity" is also an advantage. Acting as soon as something comes to mind and doing things by trial and error often lead to better results being achieved and increase the likelihood that one's work or actions will be evaluated positively.
- Individuals with ADHD find it easier to maintain concentration and make fewer mistakes when they are working on areas that they like or are good at. In other words, in areas that they find interesting, their weaknesses become hidden and it becomes easier to utilize their strengths.

Source: Kaizen's website

ADHDの特性による利点

- 「脳が多動」である点を上手く活かせば、独自の視点や豊かな発想を生み出す原動力になる。
- 「衝動性」も、思い立ったらすぐ行動し、試行錯誤することでよりよい成果にたどり着きやすくなり、評価される可能性が高くなる。
- 好きな分野、得意分野では集中力を保ちやすかったりミスも少なくなるのがADHDの特徴である。つまり自分の興味と一致する分野では弱みも見えづらく強みを活かしやすくなる。

(特)Kaizen HPを参考

ADHD の特性への対処法として代表的なものをご紹介します。スケジュール管理が上手ではないので、さまざまなツールを活用します。たとえば、スケジュール手帳や携帯電話のスケジュールメモやアラームを使う、または、家族共有のGoogleカレンダーを使うなどがあります。また、気が散りやすく、集中できないことが多いので、勉強できる環境を整える工夫も必要です。自分が一番集中できる環境を知り、静かな場所がよい人は図書館やゼミ室、少し音がする方がよい人は喫茶店や家のリビング、一人の方がよい人は自宅の自分の部屋を選択します。自宅の場合は、机の周りをすっきりさせて、パソコンなどのネット環境を制限するなどの工夫も必要です。衝動性の高い人は、イライラしたときの対処法を持っておくとよいでしょう。音や光、温度を制限した部屋でゆっくり寝転ぶとか、身体を動かすなど、自分に合った方法を見つけておくとよいと思います。ADHDの

場合、自分なりの工夫ではうまくいかない人も多いので、病院受診を勧める場合もあります。特性に合った薬を飲むことでコントロールできる人も多いので、家族にも相談し病院受診を勧めています。

Characteristics of ASD	
<p>General characteristics of the disability</p> <ul style="list-style-type: none"> Qualitative impairments in interpersonal communication and social interaction Restricted, repetitive patterns of behavior, interests, or activities Causes clinically significant impairments in social, occupational, or other important areas of functioning 	<p>Difficulties that university students with ASD frequently have</p> <ul style="list-style-type: none"> Preparing papers <ul style="list-style-type: none"> Writing an argument that incorporates one's ideas instead of listing facts Answering questions that require a written answer Presentations (oral presentations) Group research projects Grasping what the main points of the class were and taking notes Sudden changes in schedule

ASDの特性	
<p>一般的な障害特性</p> <ul style="list-style-type: none"> 対人的コミュニケーションやsocial interactionの質的な障害 行動、興味および活動の限定された反復的行動、興味、活動の様式 社会的、職業的、または他の重要な領域における機能の臨床的に著しい障害を引き起こしている 	<p>大学生にありがちな困難さ</p> <ul style="list-style-type: none"> レポート作成 <ul style="list-style-type: none"> 事実の羅列ではなく、考えを組み込みながら論述すること 記述式の問題への解答 プレゼンテーション(口頭発表表) グループ研究 授業の要点をつかみノートをとること 急な予定の変更

次に、自閉症スペクトラム障害(ASD)の特性を説明します。一般的な特性としては、「対人的コミュニケーションやソーシャルインタラクションの質的な障害」が挙げられます。大学生にありがちな困難さとしては、自分の考えを組み込みながらレポートを作成することや、記述式の問題への解答などが挙げられます。思いを言葉で表現することに時間がかかるため、プレゼンテーションの際には、準備する時間を確保する必要があります。急な予定の変更も苦手なので、周囲の人も計画的なものごとを進めることを心がける必要があります。

Advantages resulting from the characteristics of ASD

- In a good way, there are those with ASD who, because of their weaker social communication and interaction abilities, can immerse themselves in their own work without being influenced by what is happening around them. They can work without being affected by how things are seen by other people or being bound by unspoken understandings.
- If the "obsession" that a person with ASD has fits the policies that are being pursued, the person can strictly abide by the rules and work on the same task continually. There are many research areas in which this will be appreciated.
- Noticing details that tend to go unnoticed by many and performing thoroughly tasks that other people tend to find bothersome are characteristics that many people with ASD have. These qualities come in handy when performing tasks that require precision.
- Many people with ASD are honest — they cannot tell lies and do not have hidden agendas. Their serious attitude toward work is evaluated positively.

(株)Kaizen HPを参考 12

ASDの特性による利点

- 「社会性の弱さ」のために周囲の視線や暗黙の了解にとられることなく、いい意味で周りを気にせず自分の仕事に打ち込める人がいる。
- 「こだわり」が、求められている方針と一致すれば、きっちりとルールを守り継続して同じ作業を続けられる。このことを評価してもらえる研究分野も多い。
- ASDの人は多くの人が見逃しがちな細かい部分に気づいたり、他の人が面倒に思いがちなことも、抜け漏れなく行う特徴を持っている人が多く、正確さを求められる課題では重宝される。
- 嘘がつけず裏表のない実直な方が多く、まじめに仕事に取り組む姿勢はプラスに評価される。

(株)Kaizen HPを参考 13

ASDの特性による利点ですが、もともと真面目な性質を持っているので、自分の課題や仕事に打ち込める人が多いです。また、多くの人が見逃しがちな細かい部分に気づいたり、他の人が面倒に思いがちなことも、漏れがなくやり遂げることができたりするので、非常に信頼される働きぶりを発揮することができます。

Responding to the characteristics of ASD

- Convey the instructions, details of the assignment, steps to be taken, and deadlines clearly.
 - Taking notes, repeating instructions and checking, etc.
- Begin by assigning research fields in which it is not necessary to respond flexibly and change the way that one acts on the spot.
- Decide on a person who will act as a point of contact for the student. The role of the person will be to check frequently that there is no discrepancy between the actual task and the student's interpretation of the task.
 - Set up a place (a person) that the student can report to, contact, seek advice from, and ask questions to.
- Convey "communication patterns" that are required as an absolute minimum, and present a model.
- Do not use emotional words or act emotionally.

13

ASDの特性への対処法

- 指示や課題の内容や、段取り・締め切りをわかりやすく伝える。
 - メモをする，復唱して確認する等
- 臨機応変にその場で対応を変化させる必要がない研究分野を割り当てるところから始める。
- ごまめに課題のずれがないかを確かめるための相談役を決めておく。
 - 「報告」「連絡」「相談」「質問」を受ける場（人）を作る
- 最低限必要とされる「コミュニケーションの型」を伝え、モデルを示す。
- 感情的な言動で対応しない。

12

ASDの特性への対処法がここに挙げられています。学ぶ環境の「構造化」が必要であるといわれています。たとえば、「指示や課題に関する内容や段取り、締め切りをわかりやすく伝え、できれば、メールのように、何度も見返して確認できる方法で伝える」などが、重要な配慮です。

また、彼らは「ホウ・レン・ソウ」が苦手ですので、「誰に」「どのタイミングで」「どのように」伝えるのかをパターンとして教えておく必要があります。伝える「人」と「場」を決めておくと、大きな失敗は防ぐことができると思います。

また、最低限必要な「コミュニケーション」の型を伝え、それを周囲の人も守るようにすると、人間関係の混乱は防ぐことができるでしょう。

Characteristics of DCD

General characteristics of the disability

- The acquisition and execution of coordinated motor skills is substantially below that expected given the individual's chronological age and opportunity for skill learning and use.
- Difficulties are manifested as clumsiness (e.g., dropping or bumping into objects) as well as slowness and inaccuracy of performance of motor skills (e.g., catching an object, using scissors or cutlery, handwriting, riding a bike, or participating in sports)
- Lacks the sense of knowing instantaneously where each part of one's body is and what kind of state each part of one's body is in.

Difficulties that university students with DCD frequently have

Frequently, university students with DCD:

- find PE practical classes, especially sports that use equipment or team sports difficult
- cannot use lab equipment very well
- are clumsy and take an abnormally long amount of time to complete tasks that require intricate movements or find these tasks stressful
- do not have sufficient self-management or self-preservation skills

14

DCDの特性

一般的な障害特性

- 協調運動技能の獲得や遂行が、その人の生活年齢や技能の学習および使用の機会に応じて期待されているものよりも明らかに劣っている。
- 困難さは、不器用(例:物を落とす、または物にぶつかる)、運動技能(例:物を掴む、はさみや刃物を使う、書字、自転車に乗る、スポーツに参加する)の遂行における遅さと不正確さによって明らかになる。
- 自分の身体の各部分がどこにあり、どのような状態かを瞬時に把握する感覚が乏しい。

大学生にありがちな困難さ

- 体育の実技、特に道具を使う競技や団体競技が苦手。
- 実験器具をうまく扱えない。
- 不器用で細かい作業に異常に時間がかかったり、ストレスを感じたりする。
- 自己管理、自己保全のスキルが十分ではない。

13

コミュニケーションに関して、さまざまな配慮をしても、思いもよらないアクシデントが発声する場合もあります。そんな時、私たちは「どうして!？」とってしまい、つい感情的な言動をしてしまいがちですが、彼らはその感情的な言葉に驚いてしまい、パニックになることがあるため、できる限り冷静な態度と落ち着いた言葉で、何がよくなかったのか、どうしたらよいのかを伝えてください。

最後は発達性協調障害(DCD)の特性について説明します。一般的に、「不器用」とか、「運動技能の遂行に困難さ」がある人のことです。大学では、体育の実技が苦手、特に、ラケットやボールを使う競技が苦手なことが多いです。実験器具をうまく使えず、時間がかかってしまったり、細かい作業でミスをしてしまったりすることもあります。

The characteristics of DCD lead directly to difficulties

- Coordinated movements are required in all sorts of activities performed in daily life such as having meals, studying, and working. Since those with DCD experience difficulties each time coordinated movements are required, they are prone to experiencing fatigue in their daily lives and have relatively low self-esteem.
- Since those with DCD are aware that they cannot perform tasks that require coordinated motor skills well, patiently teaching them in steps and allowing them to take their time is effective.
- How to manage things: PC bags, plastic folders, pouches with compartments
- Activities/movements: Those with DCD need to do things repeatedly and find tricks or alternative ways of carrying out things that work for them.

Source: Kaien's website 15

DCDの特性は困りごとに直結

- 食事や勉強、仕事など日々のあらゆる行動に協調運動は求められ、その都度困難を感じているので、日々疲れやすく、自己肯定感が低め。
- 本人はうまくできないことを自覚しているので、焦らず、気長に、段階的な指導を行うと効果的である。
- 物の管理法：PCバッグ、クリアファイル、小分けポーチ
- 行動：繰り返し行い、自分なりのコツをつかみ、自分流の対処法を見つける

(株)Kaizen HPを参考

DCDの特性は、食事や勉強、仕事など、日々のあらゆる行動に協調運動が求められ、その都度、困難を感じているので、日々疲れやすく、自己肯定感が低くなっている人が多いです。本人はうまくできないことを自覚しているので、焦らず、気長に、段階的な指導を行うと、徐々にうまくできるようになっていきます。

II 支援までの流れ

Decision sequence for reasonable accommodation

1. Applications from disabled students
 - Expressions of wishes by the disabled student
 - If there is no application, begin constructive dialogue on the provision of support considered appropriate for the student's needs by the university etc
 - Provide necessary information and opportunities for own choices and decisions
 - Provide key documents
 - ※Whether or not there is any documentation, it is important to investigate the provision of reasonable accommodation
2. Constructive dialogue between the disabled student and university etc
3. Points to keep in mind when deciding content
4. Monitoring of the content after it has been decided

2019/2/26

18

合理的配慮の内容決定の手順

1. 障害学生からの申し出
 - 障害学生からの意思の表明
 - 申し出がない場合、大学等から当該学生に対して適切と思われる配慮を提案するために建設的対話を働きかける
 - 必要な情報や自己選択・決定の機会を提供する
 - 根拠資料の提出
 - ※資料の有無にかかわらず合理的配慮の提供について検討することが重要
2. 障害学生と大学等による建設的対話
3. 内容決定の際の留意事項
4. 決定された内容のモニタリング

19

2017年4月に、文部科学省が「障害のある学生の修学支援に関する検討会報告(第二次まとめ)」を公開しました。この中には、障害のある学生に対する「不当な差別的取り扱いの禁止」や「合理的配慮の提供」について詳しく書かれています。また、合理的配慮の内容決定の手順もあり、ここに書かれているような手順で配慮の内容が決められ、学生に提供されていきます。

まず、学生自身からの支援に関する意思の表明が必要です。しかし、発達障害学生の場合、修学上の困難さを言葉で表したり、自分に必要な配慮を適切に伝えたりすることが苦手な人が多いので、学生からの申し出がない場合、大学から当該学生に対して適切と思われる配慮を提案するために、建設的対話を働きかけなければなりません。学生が自己選択し、自己決定するために必要な情報を提供する必要もあります。

二次まとめには、「学生に根拠資料」の提出を求めています。医師の診断書や心理検査の結果がそれに当たりますが、これらの根拠資料がなくても、合理的配慮の提供について大学は検討することが重要になっています。

大切なことは、大学は障害学生との対話を通して、どのような工夫や配慮が必要なのかを一緒に考えていくことです。いったん決まった配慮内容であっても、それが学生の学びを保障するものであるかどうかを、常に検証し、より適切な配慮内容を提供していく必要があります。

合理的配慮の提供に関しては、それぞれの大学の理念や目標にも関係しますので、大学の三つのポリシー（アドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシー）やシラバス等の明確化・公開により、合理的配慮の提供において、変更可能な点と変更できない点を明確にすることができます。特に、シラバスに授業の目標、内容、評価方法を明記することは、障害のある学生が大学からの支援が必要かどうかを事前に検討するために重要な手がかりとなります。

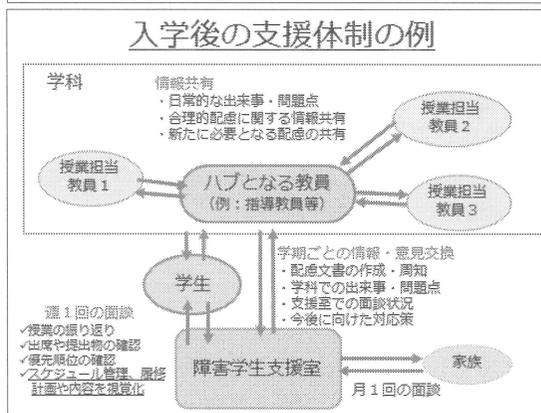
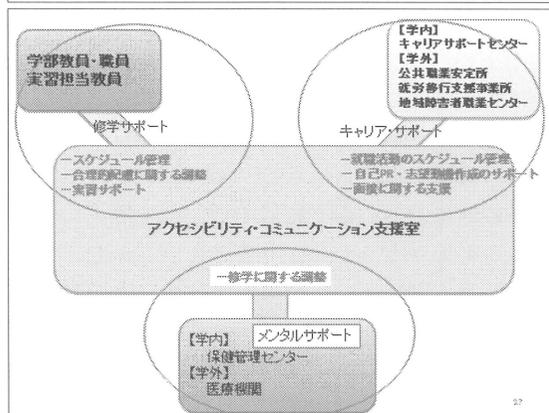
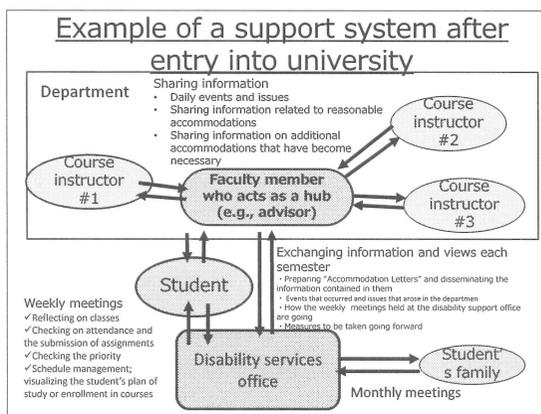
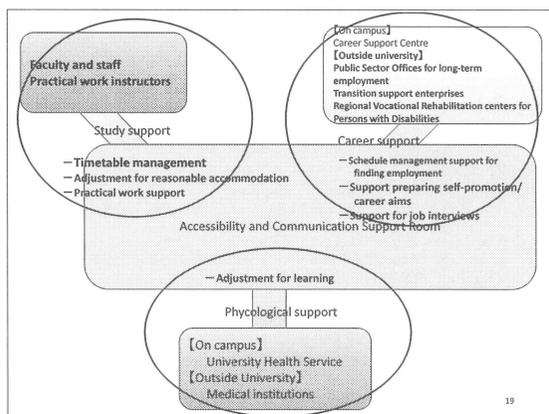
富山大学では「障害学生からの申し出」だけでなく、担当教員や学部職員、家族からの相談も受け付け、本人との面談を行います。多くの場合、修学上の困りごとがあつて紹介されていますので、学生は支援室に来ることをいやがりません。たとえ学生が診断されていなくても、支援者が本人への聴き取り等のアセスメントを行い、発達障害の特性があれば、本人の支援を開始します。多くの場合、学生本人の工夫や対処方法を見つけていくことでうまくいくことが多いのですが、本人の工夫だけではうまくいかない場合、「合理的配慮の内容」の再検討を行うことになります。

発達障害の特性

- **実行機能の障害**
 - 意思決定・計画立案・計画実行・効果的遂行
- **環境に影響されやすい**
 - 自発的に事態を構造化したり、自分にとって処理しやすい状態に変換することが難しい
- **現実には常に動いており、問題はそこに起きている**
 - どのような場面で、どういう出来事の中で、問題が起きたのかを整理して、描写することから始める必要がある。
 - 客観的な根拠資料だけで、配慮内容を決定することは難しい。

28

発達障害の特性による困難さは、「実行機能の障害」という言葉で言い表すことができます。実行に当たっては、「意思決定」、「計画立案」、「計画実行」、「効果的遂行」など順次、行われる必要がありますが、スムーズに行うことが難しいというのが特徴です。また、彼らは環境の影響を受けやすいという特徴を持っています。自発的に自体を構造化したり、自分にとって処理しやすい状態に変換することが難しいのです。現実生活は常に動いており、その時間の流れの中で、問題が起きてくることが多いことを、私たち支援者は念頭に置いておく必要があります。同じ障害名であっても、異なるところで問題が起きるのは、よくあることです。支援者は、どのような場面で、どういう出来事の中で問題が起きたのかを、状況を整理し、描写することから始める必要があります。提出された客観的な資料だけで、配慮内容を決めていくと、実質的で有効な支援にはならない可能性があることを念頭に置きながら支援することが重要です。



具体的な話に入っていく前に、富山大学の支援体制についてお話をします。

富山大学では、学生支援センターにアクセシビリティ・コミュニケーション支援室を置き、障害のある学生の修学支援と就職活動支援を一体的に行っています。修学に関しては学部教職員と連携し、支援室では、「スケジュール管理」や「合理的配慮に関する調整」、「実習サポート」などを行います。他の支援部署である保健管理センターでは学生のメンタルサポートを行っていますが、精神面の状況が落ち着き、学業に復帰できる状態になった学生に関して、支援室が修学に関する調整を行っています。また、就職に関しては、学内支援部署や学外の就労支援機関と連携しています。支援室では、「就職活動のスケジュール管理」や「自己PR・志望動機作成のサポート」、「面接練習」などを行っています。

支援体制を、あるケースを例に説明します。学部によって、学科や教室の構造が異なるので、すべて一緒ではありません。理系学部だと、学科ごとに複数の教員が情報共有して学生対応をしていることが多いので、まずは、障害学生の担当になる教員に、窓口になっていただきます。この図では、「ハブとなる教員」と示しています。障害学生は、まずは学部に配慮願いを申し出て、学部教員は窓口になる教員を通じて、障害学生支援室に協力を依頼してきます。支援を開始する前には学科教員と支援者が、本人や家族と面談し、聴き取りや根拠資料について説明を受けます。

支援室では、週一回の面談を行い、授業の振り返りや出席状況と提出物の確認、優先順位をつけるなど、スケジュール管理について話し合いを行っていきます。「合理的配慮」に関することは、本人と話し合いを行い、「配慮文書」に表し、授業担当教員に提出します。どの程度のことを配慮

文書に書くか、診断名を入れるかどうか等、学生の意思を確かめながら文書を作成し、家族にも確認していただいた後に、学科教員に渡します。

学科教員は、会議を通して、当該学生の配慮を知った上で、授業に臨むことになります。当初は必要であると思っていなかった配慮を検討しなければならない場合もありますので、学科教員と支援室の情報共有は必須となります。合理的配慮の内容が、学生本人にとって修学を支えるものではないと判断された場合「合理的配慮の内容の再検討」が行われます。

学年が進み、ゼミに所属すると、ハブとなる教員は指導教員になります。教員同士の情報共有は、学科会議で行われていますので、支援のスタイルは継続して同じスタンスで行われることになります。

「合理的配慮」は、学ぶための環境を整えることですので、支援が行われても、学生の学びが十分ではない場合は単位を落とすこともあります。他の学生と同じ土俵で学修することを保障するのが、合理的配慮の提供になります。

まじめに授業を受けているのですが、途中で講義内容がわからなくなってしまう。このままでは単位を落とすかもしれません。

自閉スペクトラム症の特性

言葉の意味に厳密で、講義内容で自分なりに気になる点があると、考え続けてしまう。その結果、授業に集中できなくなる。

支援に関するアセスメント

- ◆ 学生から困っている状況を聞き、工夫する点について一緒に検討するとともに、困難さの原因が障害特性によるものである場合、授業担当者への「配慮要請」について話し合う。
- ◆ 認知面の検査及び行動観察により、備りがあるかどうかを検討する。
- ◆ 学科教員(教養教育担当教員も含む)、事務職員、支援室で支援会議を行い、本人の特性を伝え、有効な支援について検討する。

支援方法

- ICレコーダーの使用許可
- 板書の写真撮影の許可
- 許可された配慮を実行するための支援
- 配慮が有効かどうかの検証

18

ある典型的なケースを紹介しましょう。

本人の訴えは次のようです。「真面目に授業を受けているのですが、途中で講義内容がわからなくなってしまう。このままでは単位を落とすかもしれません。」

一般的に、この訴えだけでは、発達障害の特性によるものかどうかわかりません。しかし、本人の話を良く聞いていくうちに、次のような特性が要因であることがわかってきます。先にも特性をお話ししましたように、ASDの特性がある学生は、とても真面目で授業も一生懸命に受けていますが、言葉の意味に厳密なので、単語の意味にこだわり始めると思考を止められなくなってしまう。本人がいくらこだわらないようにと思っても、そのように思考が進んでいくことは止められません。

そこで、関係者で支援会議を開き、支援方法を検討します。この学生の場合、「ICレコーダーの使用許可」と「板書の写真撮影」が合理的配慮として認められました。支援室は、ICレコーダーを忘れずに持って行くことを確認したり、復習に使用しているか、その方法が適切であるかを確かめたりする役割があります。

"I am attentive in class but get lost in the middle of lectures and cannot understand the things that the instructor discusses. I might not be able to pass if I go on like this."

A characteristic of autism spectrum disorder (ASD)

- Those with ASD interpret words in a precise manner. If there is something that they find perplexing in the lecture, they continually ponder upon that point. As a result, they cannot concentrate in class.

Assessment regarding support

- ◆ Ask the student about the areas in which they are experiencing difficulty, and consider with the student the measures that could be taken. If the cause of the difficulty is something that arose from a characteristic of the disability, discuss making "accommodation requests" to course instructors.
- ◆ Through cognitive testing and behavioral observation, consider whether there is unevenness
- ◆ Hold support meetings attended by faculty members in the department (including faculty members in the Institute of Liberal Arts and Sciences), staff members, and support workers. In the meetings, convey the characteristics of the student and consider what kind of support would be effective.

Ways in which support was provided

- Permission to use IC recorders
- Permission to take photos of the board
- Support to implement the accommodations that have been granted
- Evaluating whether the accommodations were effective

21

"I cannot submit assignments by the deadline. It takes me a long time to get started on assignments. I pick up a nearby book and start to read, or I start to play games, and time passes by."

A characteristic of attention-deficit/hyperactivity disorder (ADHD)

Those with ADHD find it difficult to organize things that should be done in an orderly fashion or to prioritize and carry out things that should be done

Assessment regarding support

- ◆ Check how the student manages his/her schedule.
- ◆ Through regular meetings, ask the student how he/she manages his/her time, including the time that he/she spends on daily activities.
- ◆ Continually monitor the progress being made toward solving problems and obtain information about the student's ability to carry out tasks.

Ways in which support was provided

- > Writing down or entering plans/schedules together using planners, mobile phones, etc.
- > Writing down or entering all plans/tasks (e.g., classes, assignments, extracurricular activities, part-time work, plans with family) and checking weekly whether the plans/tasks were carried out
- > If the student could not complete a task, investigating the reasons for this and coming up with an approach that the student would be able to implement
- > Having faculty and staff chat to the student to check how he/she is doing with tasks that need to be completed

レポートを期日までに提出することができません。レポートを書き始めるまでに時間がかかります。つい、そばにある本を読んだり、ゲームをしたりするうちに、時間が過ぎてしまうのです。

注意欠如・多動症の特性

やるべきことを順序立てて整理したり、優先順位をつけて実行することが難しい。

支援に関するアセスメント

- ◆ スケジュール管理をどのように行っているかを確認する
- ◆ 定期面談により、日常生活も含めた時間管理について聞き取る
- ◆ 課題解決に関するフォローを継続的に行い、実行機能の状態を知る

支援方法

- > スケジュール帳や携帯電話等を使い、一緒に記入(入力)する。
- > 授業、課題、サークル、アルバイト、家族との約束等、すべての予定を書き込み、実行できているかどうか一週間単位で確認する。
- > できなかった場合の要因を探り、実行可能な方法を再度考える。
- > 事務職員や教員からも、確認の声掛けをしてもらう。

もう一つのケースを紹介します。

本人の訴えは、「レポートを期日までに提出することができません。レポートを書き始めるまでに時間がかかります。つい、そばにある本を読んだり、ゲームをしたりするうちに、時間が過ぎてしまいます。」

このような話を聞くと、怠けているのと一緒ではないかと思われるかもしれませんが、しかしながら、ADHDの場合、本を読まず、ゲームもしないけど、レポートを書くためにPCの前で4時間ぐらいいっと考えていることもある等、集中力のコントロールや実行機能の障害と思われるエピソードを数多く持っています。

このようなときに、合理的配慮として「レポート提出期日の延長」を挙げたくりますが、このような特性の場合、期日を延長しても提出できないことが多いです。そこで、支援室では、アセスメントを行います。スケジュール管理の仕方や時

間管理の方法、課題解決に至る実行の部分を徹底的に確認していきます。支援方法としては、スケジュール帳や携帯電話のメモ機能を使うことを勧め、「あとで書いておいてください」ではなく、「今、ここで書きましょう」と言い、正しく書いたかどうかを確認します。大学関係のことだけでなく、プライベートのことも同じスケジュール帳に書かないと、どちらも忘れてしまうこともありますし、ダブルブッキングをしてしまうこともあります。家族だけでなく、大学教職員からの声かけやメールでのリマインドも非常に効果があります。

このような支援を行っても、うまくいかない場合は、病院を受診して服薬治療を勧める場合があります。また、合理的配慮の提供として、締め切りの延長をする場合があります。

III 発達障害学生に対する面談の意義

Significance of interviews with students with developmental disorders

<Interviews with support workers>

These provide opportunities for students

- to talk about their personal histories
- to talk about particular topics
- to discuss strategies for coping with specific challenges

- Talking allows the students to share their wishes (thoughts and hopes) with support workers.
- A process in which students become aware of their own thoughts and convert these into empirical values is important and these interviews with support workers provide opportunities for this.
- **A student who has just received a diagnosis gives this account:**
 - I'm not sure what I am able to do and where I need support. Up to now, I have simply tried to live my life the best I can. The fact that I now have this diagnosis does not necessarily mean that I'm going to ask people to make allowances. But I need someone to consult to find out what the impact of the disability is, what I will be able to do and what adjustments need to be made for me.

発達障害学生に対する面談の意義

<学生と支援者との面談>

- 体験を時系列に沿って語る場
- トピックスに絞って語る場
- 対処法を検討する場

- 語りによって、意思(自分の考えや思い)が、学生と支援者間で共有される。
- 学生自身が自分の考え(意思)として自覚し、経験値としてまとめ上げるプロセスが重要で、支援者は面談を通してその機会を提供している。
- **診断を受けて聞かない学生の言葉**
 - 自分が何ができて何を支援要請すればよいかわからない。これまでの人生は一生懸命に頑張るだけだった。診断を受けたからといって、「じゃあ、こんな配慮をお願いします」ということにはならない。自分の中の何が障害特性で、自分には何ができるのか、私にとって合理的配慮とは何なのかを一緒に話し合い、相談に乗ってくれる人が欲しい。

学生と支援者との面談は、ある時は「体験を時系列に沿って語る場」であり、またある時は「一つのトピックに絞って語る場」となり、「対処法を検討する場」になります。

対話の中では、学生の考えや思いが語られますが、支援者から見ると、「対話を通じて学生自身が自分の考えを自分の意思として自覚し、それを表明する場」を提供していることになります。

なぜ、発達障害学生の場合、対話を重視しているかという点、複数の学生の声があったからです。「これまでの私の人生は、一生懸命に頑張るだけだった。診断を受けたからと言って、じゃあ、こんな配慮をお願いします、ということにはならない。自分の中の何が障害特性で、自分には何ができるのか、私にはどんな合理的配慮が必要なのかを、一緒に話し合い、相談に乗ってくれる支援者が欲しい。」先にお話ししました障害特性を見ると、どこからが障害で、どこからが障害ではないのかわかりにくいのが発達障害の特徴です。努力すれば、他の人と同じようにできるようになると思い、頑張ってきた学生にとって、自己理解に至るまでには時間を要するものと考えた方がよいと思います。

- There are few opportunities for self-examination or talking about themselves.
- Having only recently been given the diagnosis they have not yet been able to come to any understanding of what this means to them.
- They have no experience of requesting support related to the disability.
⇒ They have no experience of requesting support related to the disability.
- ★ Within the framework of study support there are guaranteed opportunities to talk and address the effects of their particular disability and support needs.

- 自分を振り返ること、自分のことを語る機会が少ない。
- 診断が告知されて間もないので、特性理解ができていない。
- 障害に関する配慮を求めた経験がない
⇒ 支援に関する意思表示を行った経験がない。
- ★ 修学支援のなかで、「語る機会を持つ」「自分の特性や必要な配慮を知る」等の経験の場を保障する。

発達障害のある人は、一般的に、自分のことを振り返って語るという機会は非常に少ないようです。診断がある学生でも、自分自身の特性を他の人に説明したり、障害に対する配慮を求めたりする経験自体が少ないのが現状です。このような学生に対して、私たち支援者は、学生が語る機会を保障し、語ることによって、自分自身の特性や、自分に必要な配慮を知るための機会を保障する必要があると考えています。

Talking about themselves ⇒ Self-narratives

- “The self” is created by talking about oneself.
- To locate one’s own experiences in the world, these experiences need to be endorsed and shared by others. For a self-narrative to gain a place in society, it has to be part of a discussion with other people.

櫻本博明 (2002) 「<ほんとうの自分>のつくり方」講談社現代新書
浅野智彦 (2001) 「自己への物議的接近」勁草書房

At the University of Toyama . . .

- within the framework of study support for students with developmental disorders the dialogues between the students and the support workers function to foster communication .
- Reciprocity: the aims of the study support are shared in common, thus maintaining a stance (an approach to practical matters) in which the knowledge and insights necessary for their achievement are jointly contributed.

自分のことを語る ⇒ 自己物語

- ・「自己」は自分自身について物語ることを通じて産み出される。
- ・自分の経験を世界の中に位置づけるには、その経験を他者に承認してもらい共有してもらう必要がある。自己物語が社会性を獲得するには他者との語りが必要である。

橋本博明 (2002) 『<誰んとの自分>のつくり方』 講談社現代新書
 浅野裕夢 (2001) 『自己への物語的接近』 勁草書房

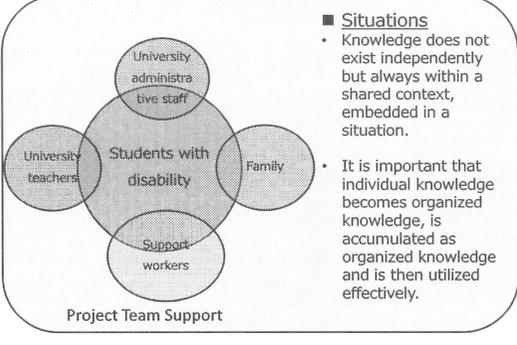
富山大学では・・・

- 発達障害学生の修学支援では、学生と支援者との対話そのものが、コミュニケーション支援の場として機能している。
- 修学支援の目的を共有し、その実現のためにお互いに知恵を出し合うというスタンス（物事に向かう姿勢）を共有する関係性を保つ。

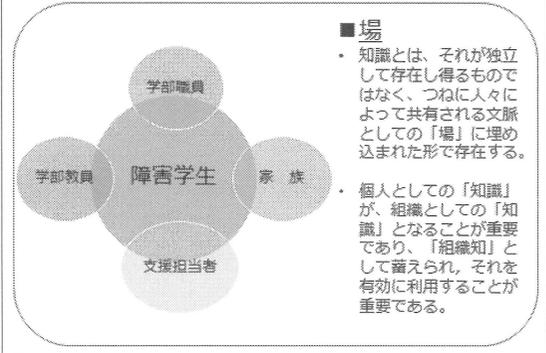
ここで、自分のことを語る意味を確認しておきたいと思います。社会学や心理学の理論を採用すると、「自己」は自分自身について物語ることを通じて産み出されます。また、自分の経験を意識し、自身の内的世界に位置づけるには、その経験を他者に承認してもらい共有してもらう必要がある。つまり、自己物語が社会性を獲得するには他者との語りが必要であるといえます。

富山大学では、発達障害学生の支援を始めるに当たって、最も大切にすることがあります。それは、対人的コミュニケーションの障害がある人の支援では、支援者が彼らと誠実に向き合い、彼らの思いや考えを正しく受け止める姿勢を持つということでした。それは、学生と支援者との対話そのものが、コミュニケーション支援の場として機能しているという自覚を持つことでもあります。

Knowledge-creation situations during study support

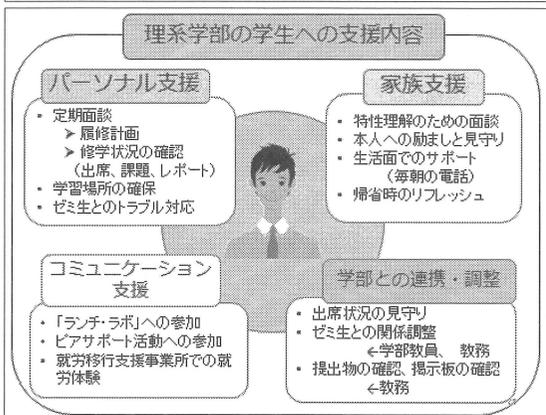
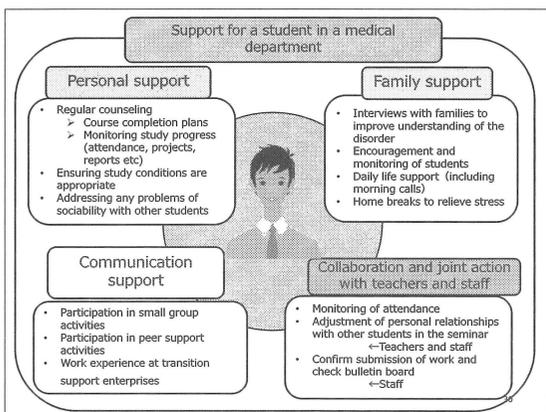


プロジェクト型チーム支援



そして、学生と支援者が修学支援の目的を正しく共有し、その実現のためにお互いの知恵を出し合い、一緒に試行錯誤を繰り返しながらより良い対処方法を考えていくという関係性を創り上げていくことも重要なポイントでした。この関係性が、彼らのコミュニケーション支援につながっているという自覚を大切に、私たちは支援を展開してきました。

本学で行う支援は、プロジェクト型チーム支援です。次のようなイメージ図で表すことができます。一人の障害学生に対して一つの支援チームを作り、支援を展開するという支援方法です。ある学生に対する支援は、障害別に特徴的な支援方法がありますが、個々の学生特有の困難さがありますから、一人ひとり異なる支援方法が採用されます。それぞれの立場で有効な支援を他の立場にいる支援者と共有することによってチームとしての知識が「組織知」となり、「発達障害学生の修学支援の方法」として蓄積されていくこととなります。ある学生に対する支援方法は、他の学生の支援方法のモデルとなり、新たな支援チームが形成されていきます。たとえば、富山大学で60名ほどの発達障害学生を支援しているとしたら、60パターンの支援チームがあるということになります。大変な人数に見えますが、支援方法が関係者で共有されていますので、それほど負担感はありません。



一人の学生を紹介します。

大学入学後、人間関係で躓き、なかなか単位を取ることができずに一人暮らしをしていた学生です。学部職員が単位取得状況を見て保護者に連絡し、保護者が支援室に訪れました。支援室では、「パーソナル支援」として定期面談を行い、履修や修学の状況を確認しました。また、コミュニケーションの問題に関しては、小集団活動に誘い、就労移行支援事業所での就労体験にも参加してもらいました。「家族支援」としては、生活面のサポートをお願いし、ストレスによる心身の疲れがみられた時は、本人に帰省することを勧め、保護者にはゆっくり休ませて欲しいことを伝えました。「学部との連携・調整」は、出席状況の確認と提出物の確認等になります。

Gaining credits→Graduating→Finding work

Support workers listen empathetically to what the students say and support them in achieving the objectives they describe

- Gain credits (attend lectures, submit reports, get exams)
- Participate in work experience
- Participate in small group activities

Specialized subjects are easier to study. I found it easy to cope with GSCE (Objective Structured Clinical Examination) because it was clear what I had to do. I got back the feeling that I 'got it' that I had lost after high school.

Work experience had clear written instructions and examples that I could follow and that was helpful. When I graduate, I want to do work training so that I can get a job that suits me.

After graduation, I want to get a stable job that will reassure my mother. I plan to go into a transit support enterprise so that I can find work within a disabled employee framework.

単位取得→卒業→就職

支援者は、学生の語りを共感的に聞きつつも、実際の行動がうまくできるようなサポート

- 進級するために単位を取得する（講義に出る、課題を出す、テストを受ける）
- 職場実習体験に参加する
- 小集団活動やコミュニケーション・ワークに参加する

専門の科目は勉強しやすい。授業では、すべきことが明確に示されていてわかりやすかった。高校までの「わかる感覚」を取り戻した。

職場実習体験は、文書による指示が徹底していて、モデルも示してもらえたのでわかりやすかった。卒業後は就業訓練を体験し、働くためのスキルを身に付け、自分に合った就職を果たしたい。

将来のことを考えてみた時に、自分は安定した就職を果たし、母を安心させたい。障害者雇用枠での就職を目指し、卒業後は就労移行支援事業所で訓練を受けるつもりです。

支援者は学生の語りを共感的に聞きます。学生はこれまでうまくいかなかったことを語り、気持ちの整理がつかないままのことが多いのですが、支援室では、実際の行動がうまくできるようにサポートしていきます。具体的には、一番目に「進級するために単位を取得するために、講義に出席すること、課題を提出すること、テストを受けることを確実に実行するように支援します。また、人とのコミュニケーションが苦手であるにも関わらず、話をしたり、一緒に食事をしたりすることが好きな学生だったので、支援室が行なっている「小集団活動」にも誘いました。

学生は、授業に出席し、課題を提出することができるようになり、無事に進級することができました。ブランクはかなり大きかったのですが、発達障害者の場合、引きこもりの時期が長くても、精神的な問題ではなく対処法がわからないだけの

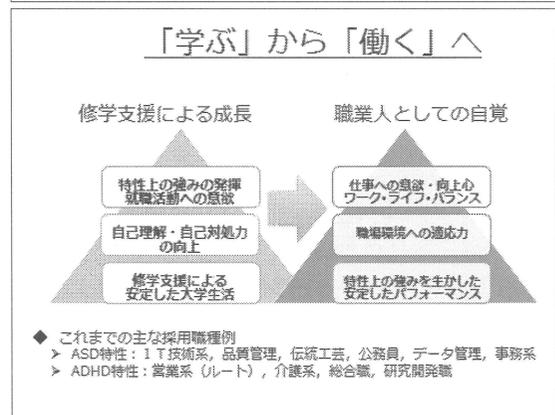
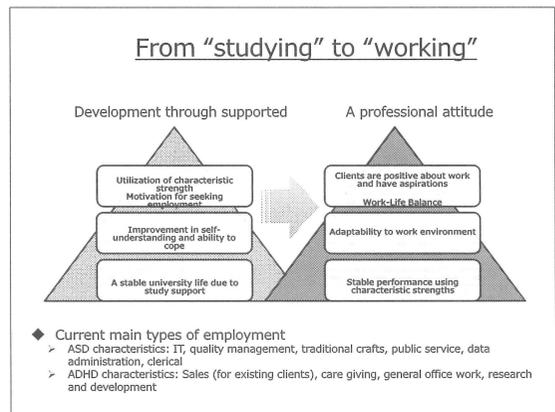
ことが多いので、回復は早いと言われています。この学生の場合も、修学状況が安定すると、気持ちも落ち着いていきました。

学生は、「専門科目の勉強はすべきことが明確に示されていてわかりやすかった。高校までの「わかる感覚」を取り戻したような気がします。」と語り、将来のことも考えることができるようになりました。そこで、就労移行支援事業所での職場実習を体験する機会を持ちました。大学生活でのコミュニケーションスキルはできて、働く時のコミュニケーションスキルは、まったく違うことを体験して欲しかったからです。実習では、与えられた仕事を正確にこなすことはできていましたが、対人的な問題（態度の硬さ、言葉遣い）が事業所から指摘されました。また、一般の就職活動では、面接で苦戦するだろうとの判断を事業所の所長からいただき、就職について、家族と本人で話し合っていたいただくこととなりました。

学生の語りです。

「職場実習体験は、文章による指示が徹底していて、モデルも示していただけだったのでわかりやすかった。卒業後は就業訓練をして、働くためのスキルを身につけ、自分に合った就職をしたい。将来のことを考えたときに、自分は安定した就職をして母を安心させたい。障害者雇用枠での就職を目指し、卒業後は就労移行支援事業所で訓練を受けるつもりです。」

この学生は在学中に病院を受診し、診断を受けました。障害者雇用枠での就職への抵抗感もなく、自分の弱みへの配慮を申請しながら、自分の強みを発揮できる働き方があると判断していました。卒業後すぐに就労移行支援事業所での訓練を受け、半年ほどで無事に就職をしました。このケースは、一人の学生の支援プロセスですが、多くの学生への支援と共通するところが多いです。まずは、「実行支援」そして、「自己理解のための小集団活動や職場実習体験」、そして、就職に至るといった流れです。



IV 「学ぶ」と「働く」を支える支援

支援室で行っている「学ぶ」と「働く」を支える支援において、支援の連続性の意義をまとめてみます。まず、修学支援による学生の成長を支える基礎となるのは、学生自身が大学生活を安定的に送ることができるという実感です。その実感と安心のなかで自分自身の特性を肯定的に理解し、諦めることなく自己対処法を模索していくことができるようになっていきます。その結果、現実の大学生活を自分の力で充実させることができるという自信が、社会参入の時期になって、あらためて自分自身の特性上の強みを発揮した就職を目指そうという決意につながると考えています。

職場定着支援における卒業生との対話からは、職業人としての自覚の芽生えをみることができま。職場環境への適応が進んでいくと、多くの卒

業生は、職業人としての自覚を語り始めます。「先輩方に褒められると嬉しい。もっと高度な技術を身につけて、会社の役に立ちたい。」などの言葉が、フォローアップ面談で聞かれることもあります。また、休みを取るタイミングがわからず、疲れが見え始めた卒業生には、QOLという言葉の概念やワーク・ライフ・バランスという言葉の概念を伝え、安定的に働くことの重要性を伝えていきます。

このスライドの図全体を眺めると、一見当たり前のことのように見えるかもしれません。また、一般的な学生は、自らの判断と能力で、これが自然にできているのかもしれない。

しかし、発達障害のある学生を支援して12年目を迎え、このような成長を丁寧に支えていく支援の重要性を感じます。彼らの素晴らしい能力が、環境を整えていくことで、社会に貢献できる能力への成長していくのです。元来、真面目で何事にも一生懸命な性質を持っている彼らを、社会の財産として育てていきたいと強く思います。

図の下には、これまでの主な採用職種を挙げています。ASDの人は、IT技術系、品質管理、伝統工芸、公務員データ管理などの事務系の職種です。ADHDの人は、営業系や介護職、研究開発などです。いずれも、特性の強みを生かした職種を選んでいきます。

Comments of graduates after university support for transition into work

<Clerical work>

- ✓I am utilizing what I learned at university, including data analysis.
- ✓I am pleased that I have been able to contribute to the improvement in company performance.




<Craft work/Technical work>

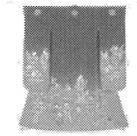
- ✓I would like to achieve the skills of the more experienced craftspeople and keep this traditional craft alive.
- ✓I am happy that I am involved with fine artwork.
- ✓I would like to obtain higher qualifications to widen the scope of my work.

34

フォローアップ支援で聞かれる卒業生の声

<事務職>

- ✓データ分析など、大学で学んだことが役に立っている。
- ✓会社の業績アップに貢献している実感が仕事の励みになる。



<職人・技術職>

- ✓先輩の技術に早く追いついて、伝統工芸を守っていきたい。
- ✓芸術性の高い作品づくりに携わっていることが嬉しい。
- ✓さらに高度な資格を取って、仕事の幅を広げたい。

23

定着支援はでは、さまざまな卒業生の声を聞くことができます。

たとえば、事務職に就いた人からは、「データ分析など、大学で学んだことが役に立っている。」「会社の業績アップに貢献している実感が仕事の励みになっている」という声を聞くことができました。また、職人や技術職についた人からは、「先輩の技術に早く追いついて、伝統工芸を守っていきたい。」「芸術性の高い作品づくりに携わっていることが嬉しい。」「さらに高度な資格を取って、仕事の幅を広げたい。」などの言葉を聞くことができます。

Remarks by the supervisors at the companies

<Clerical work>

- ✓Has a firmer grasp of the company's sales and national data than other employees and makes innovative suggestions.
- ✓Very trustworthy; all assigned work is done accurately without exception.
- ✓No work problems; we have made appropriate work adjustments based on an understanding of the employee's characteristics gained by prior discussions with the university and job transfer enterprise. .

<Craft work/Technical work>

- ✓Makes extra effort to improve skills.
- ✓Seems likely to achieve work with exceptional skill, sensitivity and intelligence.

35

企業担当者からの評価

<事務職>

- ✓他の社員よりも、自社の売り上げや全国データを把握し、新しい提案をしてくれる。
- ✓与えられた仕事は、間違いなく正確にこなすので信頼できる。
- ✓大学や就労移行支援事業所との支援会議により、事前に本人の特性を把握し、環境調整できているため、問題なく勤務できている。

<職人・技術職>

- ✓技術を磨くための努力を惜しまない。
- ✓技術・感性・知的なところも含めて、他人を寄せつけない魅力を持つようになるだろう。

23

企業担当者からの評価はつぎのようなものでした。これは、障害者雇用枠で就職した人に限られるのですが、事務職では「他の社員よりも、自社の売り上げや全国データを把握し、新しい提案をしてくれます。」「与えられた仕事は、間違いなく正確にこなすので、信頼できます。」というよい評価をいただいています。また、技術職では、「技術を磨くための努力を惜しまない。」「技術・感性・知的なところも含めて、他人を寄せつけない魅力を持つようになるでしょう。」という評価をいただいています。

Support as a bridge between adolescence and adulthood

- Support during university involves for more than solving specific problems; the problem-solving process offers physical and psychological support for maturation and plays a significant role in enhancing development. While this has the primary aim of providing practical support for behavior, it also has another significant function in providing opportunities for students to find verbal expression for their inchoate internal world and thus for self-examination.
- Self-reflection is often a painful process but support workers are there to help the students in this process of change and to achieve mental growth and transformation.
- Adolescence is a period during which students confront issues related to their identity, including the need to accept living with their weaknesses and strengths. By helping students to enhance their psychological development, we aim to provide support during this transitional period so that they can participate in society while maintaining a positive self-image.

青年期から成人期への橋渡しとしての支援

- 大学における支援は、具体的問題の解消だけにとどまらず、解決するプロセスを通して青年期の心身の成長をサポートする発達促進的な意味合いがある。実質的な行動に関する支援を一義的な目的にしながらも、彼らの漠然とした内的世界を言葉に表し、自己を見つめる機会としての意義がある。
- 自分自身を振り返る作業は時に苦しみを伴うものであるが、支援者が彼らの変容のプロセスを下支えすることで、学生は精神的な成長や変容を実現していく。
- 青年期は、学生が自分自身の弱みと強みを引き受けて生きていくこと等、アイデンティティに関わる課題に対峙する時期である。このような人生の節目に当たる青年期の学生の心的成長を促し、彼らが肯定的な自己像を持ちながら社会参加していくための支援をしていきたい。

発達障害のある学生の支援は、青年期の発達課題を念頭に置いて発達援助的な視点を持って行う必要があります。先ほどから、「実行支援」であることを強調してきましたが、支援者は学生の具体的問題の解消だけを目的にしているのではなく、解決のプロセスを通して青年期の成長をサポートしていることを忘れてはなりません。自分自身を振り返ることはとても苦しいものではありますが、彼らの不安を支え、疑問に応えながら変容するプロセスを下支えすることで、学生は精神的な成長を果たしていきます。

発達障害のある学生に限ったことではありませんが、青年期は、自分自身の弱みと強みを引き受けて生きていくこと等、アイデンティティに関わる課題に対峙する時期であるといわれています。このような人生の節目に当たる青年期の学生の心的成長を促し、彼らが肯定的な自己像を持ちながら社会参加していくことができるよう、支援していきたいと思います。

国際基督教大学FDセミナー講演内容に追加したものを掲載する

入学時および就学2ヶ月後の健康調査の有用性の検討

富山大学、保健管理センター
中川圭子、宮田留美、松井祥子

Usefulness of health investigation at the entrance and 2 months after in university freshmen.

Center for Health Care and Human Sciences, University of Toyama
Keiko Nakagawa, Rumi Miyata, Shoko Matsui

【背景と目的】 新入学生対象の健康調査として、UPI (University Personality Inventory) が広く用いられており、この結果で学生の呼出・面談などの対応をおこなうこととされている。今回、入学時および就学2ヶ月後の健康調査結果から、入学後の環境変化と自己評価による就学状況や生活習慣との関連を検討した。

【方法】 対象は富山大学高岡キャンパスの新入学生125名で、4月に施行している健康調査 (UPI、生活習慣の乱れ等の自己評価) に加えて、6月に必修科目の体育と連携し施行している保健管理センターオリエンテーション時におこなった健康調査 (4月の項目に加え就学状況の自己評価) の結果を、あわせて検討した。

【結果】 UPI 設問IIで相談希望とした (1または2と回答) 学生は、4月の入学時は124例中5例 (4%)、6月は121例中6例 (5%) であった (うち2例は重複)。この中で新たに継続カウンセリングにつながったのは、4月と6月とも各1例であった。就学状況の自己評価は、まあ楽しい/ふつう/つらいとの回答が、各々79/39/3例であった。生活習慣では、4月と6月の比較で、睡眠の乱れ (25% → 66%) と食事の乱れ (12% → 50%) の自覚が有意に増加していた。とくに相談を希望した例では睡眠の乱れの自覚が4月 (40%)、6月 (83%) とも多かった。生活習慣の乱れと住環境 (自宅か下宿生か) の違いには関連を認めなかった。就学がつらいと回答した3例は、全例で食事・

睡眠の乱れはいずれも4月に自覚なしと答えていたが、6月には全例で食事・睡眠の両方の乱れを自覚していた。就学状況が、まあ楽しい/ふつう/つらい例で、その後1年間の心理相談利用は、0/2/1例 (0/5/33%) であった。

【考察】 学生の心の健康のスクリーニング調査として、UPIが広く用いられている¹⁾。調査の時期は、学生の‘心の危機’の早期発見・早期治療のためとして、入学時の健康調査として行なわれていることが多いが、入学直後よりも大学生活開始後しばらく後に実施した方が効果的である可能性も指摘されている²⁾。今回、新入生を対象に、4月の健康診断時の調査 (UPI、生活習慣の乱れ等の自己評価) に加え、6月に必修科目の体育と連携しておこなう保健管理センターオリエンテーション時に実施した健康調査 (4月の項目に加え就学状況の自己評価) の結果を、あわせて検討した。

UPI 設問IIでの相談希望の有無は、4月と6月で各5例と6例で大きな差はなく、うち4月と6月の両方で相談を希望したのは2例であった。相談希望の有無は、必ずしも6月の就学の‘つらさ’と一致しなかった。‘つらさ’の内訳は、すでに医療介入されている例のほかに、やるが多くなって全部をきちんとやろうとすると出来なくて困っているというものもあり、保健管理センター職員の、きちんとするのは良いことだが、学業や生活が続けられるように疲れすぎないことも大事、優先順位やメリハリをつける、もっと気楽

に考えて良いかも、また困ったら相談を、などのアドバイスで安心できたようであった。

生活習慣の乱れと住環境（自宅か下宿生か）の違いには関連を認めなかった。生活習慣の自由記載欄には、課題学習や趣味の活動やサークル、アルバイトで不規則、多忙である以外に「スマートフォンを使用していて夜更しする、寝落ちする」「朝食（などの食事）を抜いてしまう」と記入した学生が目立った。これらが良くない習慣であり、改善の余地があると考えている学生も少なくないと思われる。

6月に就学が‘つらい’と回答した学生では、全例で4月に生活習慣の乱れの自覚なしと答えていたが、6月には全例で食事・睡眠の両方の乱れと運動不足を自覚していた。回答数が少ないため統計学的検討はおこなっていないが、「6月の就学のつらさの自覚」と「生活習慣の乱れの自覚」が強く関連すると思われるような結果となった。就学状況についても、まあ楽しい/ふつう/つらい例で、その後1年間の心理相談利用が0/5/33%であり、「6月時点のつらさ」と関連が示唆されるような結果であった。‘つらさ’と心理相談利用との関連は、明らかな健康面や経済面や成績など就学上の困難を抱えているというほかに、程度の差はあれ、何らかの就学困難感があって、何とかしたいと考えている、あるいは何とかしよ

うと行動に移すという、困難の乗り越えの過程をみているという側面もあるかもしれない。調査では、困り感の内容や緊急度は様々ではあるが、学生の就学困難感に対する何らかのサポートのきっかけとなると思われる。

これら健康調査をおこなう効果的な時期や方法については、時代や生活環境の変化とともに変わると思われ、ひきつづき検討が必要と思われる。今回は対象症例が少なく、1学年のみの検討であるため、今後、これらの健康調査結果と長期的な就学経過との関連や、他の学年でも同様の結果か、の検討もおこなっていきたい。

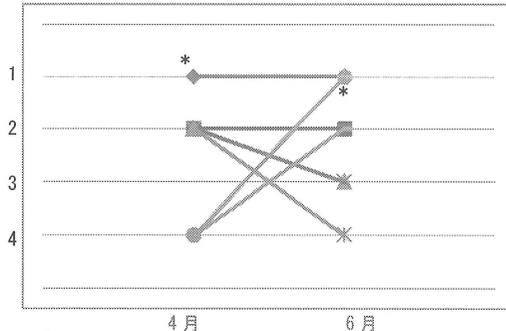
【結論】 入学時の情報に加えた就学2ヶ月後の健康調査は、学生の学業面・生活面の目配りやサポートの可否の手がかりとなる。また、学生が日々の生活習慣を振り返り、見直すきっかけになりうる。学生生活に慣れてから以降の経過もあわせて、必要に応じて相談の機会を作る、環境調整を検討するなどの材料にもなりうると考えられた。

【文献】

- 1) 全国大学保健管理研究協会．UPI（University Personality Inventory；学生精神的健康調査）（1966）．
- 2) 井上勝夫，宮岡 等．学生相談利用状況からみたUPI再考．日本心理学会第75回大会（2011）．

◆ UPI-II 相談希望者の4-6月の変化

UPI 設問 II の回答



* 継続カウンセリングにつながった例

1 または 2

相談希望

保健管理センターにて

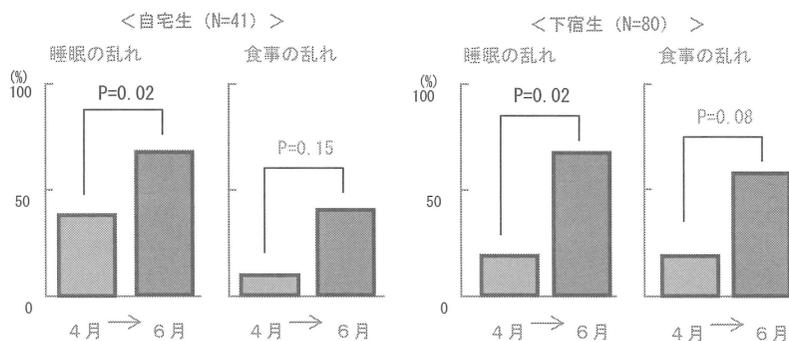
- 呼び出し、話を聞く
- 必要・希望に応じて保健セ臨床心理士による相談
- 内容により他の相談先につなぐ
- 必要なら相談継続

◆ UPI-II 相談希望者のうちわけ

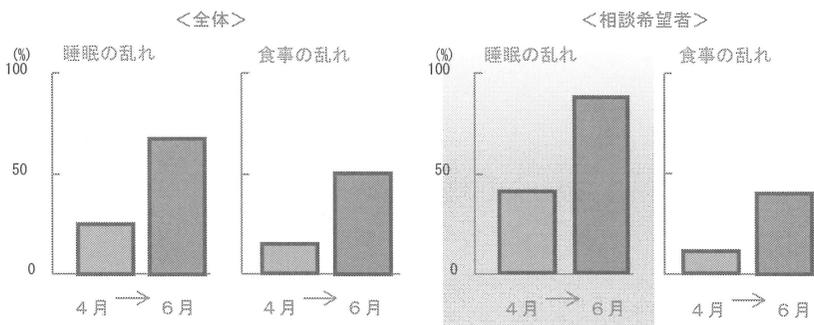
UPI 設問 I I の回答		生活習慣の乱れ				就学状況 (6月)		一人 暮らし	
		睡眠		食事					
4月	6月	4月	6月	4月	6月				
1	1		○		○	つらい	医療介入+		*
2	2		○		○	まあ楽しい	遠距離通学		
2	3		○			まあ楽しい			
2	3	○	○			普通		○	
2	4	○	○		○	まあ楽しい			
4	1	○		○		普通	相談開始	○	*
4	1		○		○	まあ楽しい		○	
4	2	○	○			まあ楽しい			
未記入	1		○			まあ楽しい		○	

* 継続カウンセリングにつながった例

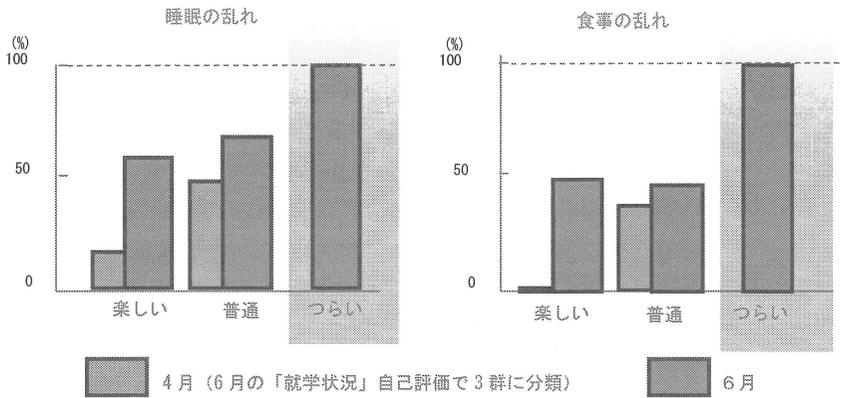
◆ 「生活習慣」自己評価と生活環境



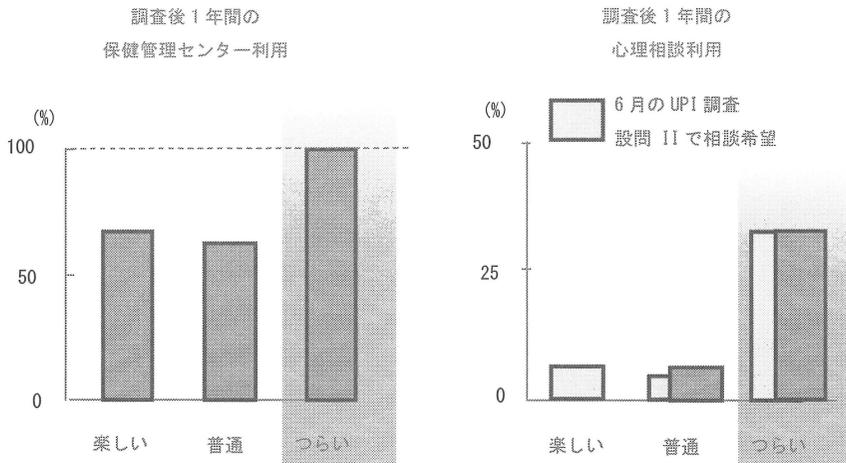
◆ 全体 / 相談希望者の「生活習慣」自己評価



◆自己評価による「就学状況」と「生活習慣」



◆自己評価による「就学状況」と「相談利用」



本学学生における BMI 分類ごとの血圧、生活習慣の特徴

富山大学保健管理センター杉谷支所

岩田 実、高倉一恵、野口寿美、松井祥子、山本善裕

Comparison of blood pressure and lifestyle in the university student of sugitani campus divided according to BMI.

Minoru Iwata, Kazue Takakura, Hitomi Noguchi, Shoko Matsui, Yoshihiro Yamamoto

要旨

目的 学生定期健康診断（以下、健診）で得られた BMI に焦点をあて、血圧、生活習慣との関連を調査、分析することを目的とした。

方法 2017 年度に杉谷キャンパスで健診を受検した医学部・薬学部の学生 1699 名を対象とした。その際に測定された BMI により、対象者を 18.5 未満の「痩せ群」、18.5~25 未満の「正常群」、25 以上の「肥満群」の三群に分類し、問診票の項目（食生活、運動習慣、睡眠、喫煙、飲酒状況）との関連や、血圧、尿検査における尿糖などについて横断的に比較検討した。

結果 肥満群は、男性で 14.6%、女性で 6.5%、痩せ群は、男性で 9.4%、女性で 15.1% 認めた。肥満群、正常群、痩せ群において、朝食の欠食割合、睡眠時間、飲酒状況について有意差は認められなかったが、運動習慣有りの割合は、痩せ群において有意に少なく (37.3%, 32.6%, 17.2%, $P < 0.0001$)、喫煙習慣有りの割合は肥満群において有意に多く認められた (3.4%, 2.1%, 1.0%, $P < 0.0001$)。又、上記三群において収縮期血圧 (mmHg) は肥満群で有意に高値であった (128.3 ± 11.2 , 119.6 ± 11.9 , 114.4 ± 11.5 , $P < 0.0001$)。

結語 今回の結果から、喫煙習慣が肥満と関連している事が示唆され、又、若年者であっても肥満により血圧が増加する事が明らかになった。

【はじめに】

肥満は、将来、糖尿病、高血圧、脂質異常症などの生活習慣病発症の原因になりうる。又、不適切な食生活や運動習慣は肥満の原因となる。本研究では本学学生において、学生定期健康診断（以下、健診）で得られた BMI に焦点をあて、BMI と関連する生活習慣、BMI の異常によって生じうる健診データ異常（血圧、尿所見など）を分析することを目的とした。

【対象と方法】

（研究対象者）

2017 年度に杉谷キャンパスで健診を受検した

医学部・薬学部の学生 1699 名（男子 832 名 女子 867 名）。

（健診内容及び問診票の項目）

- ・健診内容：身長及び体重計測、視力測定、血圧測定、胸部 X 線撮影、尿検査、問診、内科診察
- ・問診票の項目

a) 食生活

- ・ほぼ毎日朝食を、食べる or 食べない
- ・栄養素のバランスを、考える or 考えない

b) 運動習慣

週二回以上、運動する or 運動しない

c) 睡眠

睡眠時間は、7 時間以上 or 7 時間未満

図 1) BMI による分類

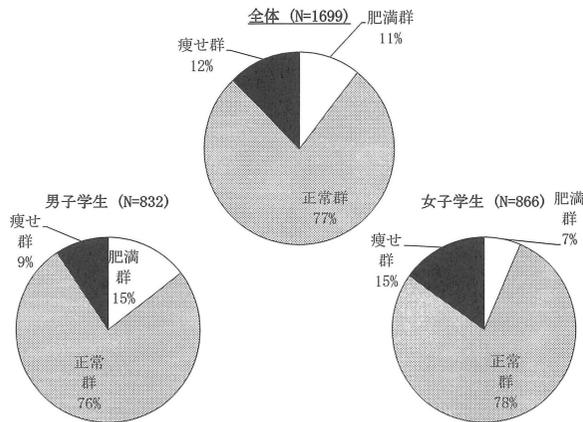


表 1) 本学学生の生活習慣に関する問診の結果

	男女全体	男子学生	女子学生
ほぼ朝食を毎日食べる (%)	64.8	57.7	71.6
睡眠時間は7時間以上である (%)	27.3	29	25.6
週二回以上運動をする (%)	31.1	42.4	20.4
栄養のバランスを考えている (%)	35	35.6	34.5
喫煙 (%) (吸わない/止めた/吸う)	95.8/2.1/2.1	92.9/3.3/3.9	98.6/1.0/0.4
飲酒 (%) (飲まない/週1~4日/週5~6日/ 毎日飲む)	73.7/25.0/1.0/0.2	67.4/30.8/1.4/0.4	79.8/19.5/0.6/0.1

d) 喫煙状況

吸わない (非喫煙者) or やめた (過去喫煙者)
or 吸う (現在喫煙者)

e) 飲酒状況

飲まない or 週 1~4 日 or 週 5~6 日 or 毎日飲む
(解析内容) 健診受検時に測定された BMI により、対象者を 18.5 未満の「痩せ群」、18.5~25 未満の「正常群」、25 以上の「肥満群」の三群に分類し、問診票の項目 (食生活、運動習慣、睡眠、喫煙、飲酒状況) との関連や、血圧、尿検査における尿糖などについて横断的に比較検討した。

(統計解析方法)

統計ソフトは JMP11.0 を用い、上記三群間の有意差の有無については、ANOVA 検定もしくは、カイ二乗検定で判断した。又、BMI との関連に

については、単相関解析及び、交絡因子で調整した重回帰分析により検討した。

【結果】

肥満群は、男性で 14.6%、女性で 6.5%、痩せ群は、男性で 9.4%、女性で 15.1% 認めた (図 1)。

問診項目の結果について表 1 に示す。生活習慣に関する問診を行った所、男子学生、女子学生において、ほぼ毎日朝食を欠食する割合は、それぞれ 42%、29%、栄養のバランスを考えて食生活を行っている割合は、共に 35% 程度、現在喫煙者は 3.9%、0.4%、常酒者の割合 (週 5 日以上飲酒) は、1.8%、0.7% であった。

次に、BMI の値により分類された肥満群、正常群、痩せ群における生活習慣の情報や、血圧、

表 2) BMI による三群における問診・血圧・尿所見の結果 (男女全体)

	肥満群	正常群	痩せ群	P値
平均年齢 (歳)	23.3±4.6	21.8±3.4	21.4±3.6	<0.0001
男子学生の割合 (%)	68.4	48.3	37.3	<0.0001
生活習慣に関する問診事項				
ほぼ朝食を毎日食べる (%)	70.1	63.9	64.8	0.25
睡眠時間は7時間以上である (%)	29.4	27.4	27.3	0.53
週二回以上運動をする (%)	37.3	32.6	31.2	<0.0001
栄養のバランスを考えている (%)	35.6	35.4	35	0.63
タバコを吸う (%)	3.4	2.1	1.0	<0.0001
アルコール飲まない (%)	72.3	72.6	73.7	0.14
血圧・尿所見				
収縮期血圧 (mmHg)	128.2±11.1	119.6±11.9	114.4±11.5	<0.0001
拡張期血圧 (mmHg)	71.1±9.4	66.6±8.4	65.8±8.1	<0.0001
尿蛋白陽性者の割合 (%)	2.4	3.7	3.3	0.35
尿糖陽性者の割合 (%)	0.0	1.02	0.91	0.58

データは割合(%)もしくは、means ± SDで表示

表 3) 血圧と各因子との関係 (重回帰分析により、性、年齢、喫煙状況で調整後)

	β	SE	P値
年齢	0.025	0.070	0.73
性(男:1, 女:2)	-11.34	0.501	1.00×10^{-25}
BMI	1.09	0.09	1.00×10^{-25}
喫煙状況 (非喫煙者:0, 過去喫煙者:1, 現在喫煙者:2)	-0.46	0.79	0.56

表 4) BMI と各因子との関係 (重回帰分析により、性、年齢で調整後)

	β	SE	P値
年齢	0.13	0.02	9.32×10^{-11}
性(男:1, 女:2)	-0.97	0.14	5.52×10^{-12}
喫煙状況 (非喫煙者:0, 過去喫煙者:1, 現在喫煙者:2)	0.60	0.22	6.66×10^{-3}

尿所見の違いについて検討した (表 2)。

肥満群、正常群、痩せ群において、朝食の欠食割合、睡眠時間、飲酒状況については有意差は認められなかったが、運動習慣有りの割合は、痩せ群において有意に少なく (37.3%, 32.6%, 17.2%, $P<0.0001$)、喫煙習慣有りの割合は肥満群において有意に多く認められた (3.4%, 2.1%, 1.0%, $P<0.0001$) (表 2)。又、上記三群において収縮期血圧 (mmHg) は肥満群で有意に高値であった ($128. \pm 11.2$, 119.6 ± 11.9 , 114.4 ± 11.5 , $P<0.0001$) (表 2)。

表 2 の結果や単相関解析より、BMI には喫煙状況、年齢、性も関連する為、これらの交絡因子で調整後も、BMI と血圧の有意な正の相関は、認められた ($\beta = 1.09$, $P=1.00 \times 10^{-25}$) (表 3)。又、喫

煙と BMI の関連も、交絡因子 (性、年齢) で調整後も認められた ($\beta = 0.60$, $P=6.66 \times 10^{-3}$) (表 4)。

【考察】

2016 年の国民健康栄養調査の結果より、近年、食生活の欧米化や運動不足により日本国民全体の BMI が増加し、生活習慣病の有病率増加が問題になっている¹⁾。又、大学生のような 20 歳代においても男性において、以前に比べて平均 BMI の増加を認めている¹⁾。本学学生の BMI は、2016 年国民健康栄養調査の 20 歳代の BMI よりも若干低値であった (平均 BMI(kg/m²) 男性; 本学学生 vs 全国平均, 21.9 vs 22.9 女性; 本学学生 vs 全国平均, 20.8 vs 20.9)¹⁾。若年時の肥満や、或いは、若年時から中年期にかけての体重増加が、

2型糖尿病の発症²⁾を招く事が報告され、その為、将来の平均寿命や健康寿命の短縮につながると思われる。そのような点から、大学生時代から、生活習慣の修正、肥満の改善を図る事は重要であると思われる。他の報告においては、大学生において、早食いや朝食の欠食が肥満に繋がるといった結果が得られているものも認められる³⁾が、今回の報告では、そのような結果は得られなかった。既報と我々の検討では、問診の内容が若干異なっており、その方法の違いが結果の違いに影響していると思われる。

今回、BMIの値により分類し、それに影響を与える生活習慣の違いと、BMIにより生じる血圧・尿所見異常について比較検討した。その結果、喫煙が肥満と関連し、又、肥満群では運動習慣を有するものが、その他の群よりも、多く認められた。後者については、一見矛盾するように思われるが、今回の解析は、横断的な検討であり、肥満と運動習慣の関連に関して、その因果関係については断定できない。肥満群においては、それを改善しようとして、運動習慣を有する割合が高かったのではないかと推測している。又、喫煙と肥満の関連については、既に報告されており⁴⁾、喫煙自体、将来的な肺癌の発症や動脈硬化の危険因子であり、これらを回避する為にも禁煙指導は必要と思われる。

又、肥満と高血圧の関係についても古くから報告されている。我々も以前、検討した結果でも同じ知見を得ている⁵⁾。高血圧は、脳卒中、心疾患、慢性腎臓病の危険因子であり、そのような意味でも肥満の改善を学生時代から図る事が重要であると思われた。

【結語】

今回の結果から、喫煙習慣が肥満と関連してい

る事が示唆され、又、若年者であっても肥満により血圧が増加する事が明らかになった。高血圧は、将来、動脈硬化性疾患発症の危険因子となる為、肥満改善の指導（禁煙指導 etc.）が必要と思われた

【文献】

- 1) 平成28年度国民健康栄養調査報告 厚生労働省. <https://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/eiyoudl/h28-houkoku.pdf>
- 2) Yoshizawa S, Heianza Y, Arase Y, et al. Comparison of different aspects of BMI history to identify undiagnosed diabetes in Japanese men and women: Toranomon Hospital Health Management Center Study 12 (TOPICS 12). *Diabet Med* 2014; 31: 1378-1386.
- 3) Yamane M, Ekuni D, Mizutani S, et al. Relationships between eating quickly and weight gain in Japanese university students: a longitudinal study. *Obesity (Silver Spring)*. 2014;22:2262-2266.
- 4) Watanabe T, Tsujino I, Konno S, et al. Association between Smoking Status and Obesity in a Nationwide Survey of Japanese Adults. *PLoS One*. 2016;11:e0148926.
- 5) Okazawa T, Iwata M, Matsushita Y, et al. Aging attenuates the association of central obesity with the accumulation of metabolic risk factors when assessed using the waist circumference measured at the umbilical level (the Japanese standard method). *Nutr Diabetes*. 2013;3:e96.

平成 30 年 (H30.1.1-H30.12.31) 研究業績

五福キャンパス

センター長・教授	松井 祥子	Shoko Matsui
准 教 授	西村優紀美	Yukimi Nishimura
講 師	竹澤みどり	Midori Takezawa
看 護 師	角間 純子	Junko Kakuma
看 護 師	山田 真帆	Maho Yamada
看 護 師	牧野 節子	Makino Setsuko
カウンセラー (非常勤)	細川 祝	Iwai Hosokawa

松 井 祥 子

【著書】

- 1) 川野充弘、唐島成宙、松井祥子、赤水尚史. 内分泌疾患診療ハンドブック Ver.2. 横手幸太郎監修, 龍野一郎, 橋本尚武, 岩岡秀明編集. 東京: 中外医学社; 2018. IgG4関連疾患; p355-363
- 2) 松井祥子. サルコイドーシス診療の手引き 2018. サルコイドーシス診療の手引き作成委員会編集. サルコイドーシス/肉芽腫性疾患学会; 2018. 鑑別診断; <http://jssog.com/www/top/2018/2-6-7.pdf>

【原著】

- 1) Wallace ZS, Khosroshahi A, Carruthers MD, Perugino CA, Choi H, Campochiaro C, Culver EL, Cortazar F, Della-Torre E, Ebbo M, Fernandes A, Frulloni L, Hart PA, Karadag O, Kawa S, Kawano M, Kim MH, Lanzillotta M, Matsui S, Okazaki K, Ryu JH, Saeki T, Schleinitz N, Tanasa P, Umehara H, Webster G, Zhang W, Stone JH. An International Multispecialty Validation Study of the IgG4-Related Disease Responder Index. *Arthritis Care Res (Hoboken)*. 2018;70:1671-1678.
- 2) Mizushima I, Yamada K, Harada K, Matsui S, Saeki T, Kondo S, Takahira M, Waseda Y, Hamaguchi Y, Fujii H, Yamagishi M, Kawano M. Diagnostic sensitivity of cutoff values of IgG4-positive plasma cell number and IgG4-positive/CD138-positive cell ratio in typical multiple lesions of patients with IgG4-related disease. *Mod Rheumatol*. 2018;28:293-299.
- 3) Handa T, Matsui S, Yoshifuji H, Kodama Y, Yamamoto H, Minamoto S, Waseda Y, Sato Y, Kubo K, Mimori T, Chiba T, Hirai T, Mishima M. Serum soluble interleukin-2 receptor as a biomarker in immunoglobulin G4-related disease. *Mod Rheumatol*. 2018;28:838-844.
- 4) Shirakashi M, Yoshifuji H, Kodama Y, Chiba T, Yamamoto M, Takahashi H, Uchida K, Okazaki K, Ito T, Kawa S, Yamada K, Kawano M, Hirata S, Tanaka Y, Moriyama M, Nakamura S, Kamisawa T, Matsui S, Tsuboi H, Sumida T, Shibata M, Goto H, Sato Y, Yoshino T, Mimori

T. Factors in glucocorticoid regimens associated with treatment response and relapses of IgG4-related disease: a multicentre study. *Sci Rep.* 2018 Jul 6;8(1):10262. doi: 10.1038/s41598-018-28405-x.

- 5) Matsui S. IgG4-related respiratory disease. *Mod Rheumatol.* 2018 Nov 24;1-10. doi: 10.1080/14397595.2018.1548089. [Epub ahead of print]
- 6) Wallace ZS, Zhang Y, Perugino CA, Naden R, Choi HK, Stone JH; ACR/EULAR IgG4-RD Classification Criteria Committee. Clinical phenotypes of IgG4-related disease: an analysis of two international cross-sectional cohorts. *Ann Rheum Dis.* 2019 Jan 5. pii: annrheumdis-2018-214603. doi: 10.1136/annrheumdis-2018-214603. [Epub ahead of print]

【総説】

- 1) 松井祥子. IgG4関連疾患の病因・病態を考える - IgG4関連呼吸器疾患から. *リウマチ科.* 2018; 60(4): 366-372.
- 2) 松井祥子. IgG4関連呼吸器疾患. *日本医師会雑誌.* 2018;147(2): 280-284.

【学会報告】

- 1) Matsui S, Okazawa S, Tokui K, Kambara K, Imanishi S, Taka C, Yamada T, Inomata M, Miwa T, Hayashi R, Tobe K. Allergy in IgG4-related disease. *AAAI/WAO Joint Congress 2018;* 2018 Mar2-5; Orlando.
- 2) Matsui S, Yamamoto H, Handa T, Okazawa S, Tokui K, Taka C, Imanishi S, Kambara K, Ichikawa T, Inomata M, Hayashi R, The study group of IgG4-RD. Malignancies in patients with IgG4-related respiratory disease. *ATS 2018 International Conference;* 2018 May 18-23; San Diego.
- 3) Waseda Y, Matsui S, Yamada K, Mizuguchi

K, Watanabe S, Ito K, Zuka M, Malissen M, Kawano M, Ishizuka T. Evaluation of Lung Lesions in LATY136F Mutant Mice. *ATS 2018 International Conference;* 2018 May 18-23; San Diego.

- 4) 田中宏明, 徳井宏太郎, 岡澤成祐, 神原健太, 猪又峰彦, 山田徹, 松井祥子, 多喜博文, 戸邊一之, 林龍二. 重症呼吸不全で発症し、多剤併用免疫抑制療法で救命し得た抗EJ抗体陽性急速進行性間質性肺炎の1例. 第234回日本内科学会北陸地方会; 2018Mar 18; 福井.
- 5) 早稲田優子, 松井祥子, 渡辺知志, 佐藤譲之, 杉山光寿, 中嶋康貴, 三ツ井美穂, 島田昭和, 園田智明, 山口牧子, 本定千知, 門脇麻衣子, 重見博子, 梅田幸寛, 森川美羽, 安斎正樹, 石塚全. Lat Y136F knock-inマウス (IgG4関連肺疾患モデルマウス) の肺病変の解析. 第58回日本呼吸器学会学術講演会; 2018Apr 27-29; 大阪.
- 6) 勢藤善大, 徳井宏太郎, 下川一生, 高千紘, 岡澤成祐, 神原健太, 猪又峰彦, 今西信悟, 市川智巳, 山田徹, 三輪敏郎, 松井祥子, 林龍二, 戸邊一之. 気道狭窄、心尖部心室瘤、多発肝腫瘍を伴った全身性サルコイドーシスの1例. 第41回日本呼吸器内視鏡学会学術集会; 2018 May 24-25; 東京.
- 7) 梶川清芽, 岡澤成祐, 勢藤善大, 平井孝弘, 徳井宏太郎, 高千紘, 神原健太, 猪又峰彦, 今西信悟, 市川智巳, 戸邊一之, 山田徹, 林龍二, 松井祥子, 山本善裕. MACに準じた3剤治療で解熱が得られたMycobacterium Shimoidei感染症の1例. 第80回呼吸器合同北陸地方会; 2018 Jun 9-10; 金沢.
- 8) 岡澤成祐, 勢藤善大, 平井孝弘, 田中宏明, 徳井宏太郎, 高千紘, 神原健太, 猪又峰彦, 今西信悟, 市川智巳, 山田徹, 三輪敏郎, 林龍二, 松井祥子, 戸邊一之. 実臨床上でメボリズマブを使用された重症気管支喘息患者背景と治療効果の検討. 第67回日本アレルギー

- 学会学術大会；2018Jun 22-24；千葉。
- 9) 今西信悟, 平井孝弘, 徳井宏太郎, 高千紘, 岡澤成祐, 神原健太, 猪又峰彦, 三輪敏郎, 戸邊一之, 山田徹, 林龍二, 松井祥子. ニボルマブ投与中に筋炎を発症し、筋生検を施行した肺扁平上皮癌の1例. 第73回日本肺癌学会北陸支部学術集会；2018Jul 7；金沢。
- 10) 並河大器, 岡澤成祐, 平井孝弘, 徳井宏太郎, 高千紘, 神原健太, 猪又峰彦, 今西信悟, 三輪敏郎, 戸邊一之, 山田徹, 林龍二, 松井祥子. TS-1内服中にサイトメガロウイルス腸炎を発症した肺腺癌の1例. 第73回日本肺癌学会北陸支部学術集会；2018Jul 7；金沢。
- 11) 松井祥子, 篠田晃一郎, 岡澤成祐, 徳井宏太郎, 高千紘, 神原健太, 今西信吾, 猪又峰彦, 多喜博文, 戸邊一之. 診断後に経過観察を行ったIgG4関連疾患の転帰. 第27回日本シェーグレン症候群学会学術集会；2018 Sep 14-15；小倉。
- 12) 岡澤成祐, 平井孝弘, 田中宏明, 徳井宏太郎, 高千紘, 神原健太, 猪又峰彦, 今西信悟, 山田徹, 林龍二, 松井祥子, 傍島光男, 戸邊一之. オシメルチニブ再投与により繰り返し心不全をきたした肺腺癌の1例. 第81回呼吸器合同北陸地方会；2018 Oct 27-28；福井。
- 13) 徳井宏太郎, 平井孝弘, 田中宏明, 下川一生, 高千紘, 岡澤成祐, 神原健太, 今西信悟, 山田徹, 三輪敏郎, 松井祥子, 猪又峰彦, 戸邊一之, 林龍二. 肺Mycobacterium shinjukuense感染症の1例. 第81回呼吸器合同北陸地方会；2018Oct 27-28。
- 14) 岩田 実, 高倉一恵, 野口寿美, 松井祥子, 山本善裕. 本学学生におけるBMI分類ごとの血圧、生活習慣病の特徴. 第56回全国大学保健管理研究集会；2018 Oct 3-4；東京。
- 15) 中川圭子, 宮田留美, 松井祥子. 入学時および就学2ヶ月後の健康調査の有用性. 第56回全国大学保健管理研究集会；2018 Oct 3-4；東京。
- 16) 木戸敏喜, 松井祥子, 平井孝弘, 大村佳之, 川高正聖, 奥村麻衣子, 津田玲奈, 朴木博幸, 篠田晃一郎, 多喜博文, 戸邊一之. 治療経過中発症した副鼻腔炎の鑑別を要した中耳炎先行の多発血管炎性肉芽腫症の一例. 第38回日本サルコイドーシス/肉芽腫性疾患学会総会；2018 Nov 2-3；東京。
- 17) 山本 洋, 安尾将法, 小松雅宙, 曾根原圭, 市山崇史, 立石一成, 牛木淳人, 漆畑一寿, 花岡正幸, 川上 聡, 堀 敦詞, 上原 剛, 浜野英明, 川 茂幸, 松井祥子. サルコイドーシスのBAL液中各種メディエーターの解析. 第38回日本サルコイドーシス/肉芽腫性疾患学会総会；2018 Nov 2-3；東京。

【その他】

- 1) 松井祥子. IgG4関連疾患の呼吸器診断基準. 厚生労働科学研究 難治性疾患克服研究事業「IgG4関連疾患並びに治療指針の確立を目指した研究」平成29年度 研究成果報告書。
- 2) 松井祥子. 呼吸器領域分科会報告. 厚生労働科学研究 難治性疾患克服研究事業「IgG4関連疾患並びに治療指針の確立を目指した研究」班(岡崎班)第1回合同班会議；2018 Dec 14；京都。
- 3) 松井祥子, 猪又峰彦, 岡澤成祐, 平井孝弘, 田中宏明, 下川一生, 徳井宏太郎, 高千紘, 神原健太, 今西信悟, 山田徹, 三輪敏郎, 林龍二, 篠田晃一郎, 多喜博文, 戸邊一之. IgG4関連疾患とアレルギー. 第11回IgG4研究会. 2018 Mar 10；松本。
- 4) 松井祥子. アスピリン喘息 西能病院2018 Nov 14；富山。
- 5) 松井祥子. タバコと健康. 青少年健康づくり支援事業 東部中学校；2018 Jul 6；富山。
- 6) 松井祥子. タバコと健康. 青少年健康づくり支援事業 早月中学校；2018 Jul 11；富山。
- 7) 松井祥子. タバコと健康. 青少年健康づくり支援事業 西部中学校；2019 Jan 22；富山。

西村 優紀美

【著書】

- 1) 西村優紀美 (2018) 合理的配慮に基づく大学生への支援. 教育と医学66-11,74-81.
- 2) 西村優紀美(2018)2.5.1実習における支援の実際1(発達障害). 竹田一則編著 よくわかる!大学における障害学生支援. 株式会社ジアース教育新社, 73-79.
- 3) 西村優紀美(2018)第6章大学進学への移行支援. 松村暢隆編著 2E教育の理解と実践. 金子書房, 95-104.

【学会、研究会等における学術講演】

- ①西村優紀美：高等教育における障がい学生支援～発達障害・精神障害のある学生への支援の在り方. 鹿屋体育大学FD研修会. 2018.1.24. 鹿児島.
- ②西村優紀美：障がい学生の支援体制の構築と合理的配慮の探求. 鳥根県立大学学生相談研究会. 2018.1.31. 鳥根.
- ③西村優紀美：発達障害生徒に対する支援. 和光高等学校校内研修会. 2018.3.15. 埼玉県.
- ④西村優紀美：発達障害学生に対する合理的配慮のあり方. 日本学生相談学会第36回大会ワークショップ. 2018.5.19. 神奈川県.
- ⑤桶谷文哲・西村優紀美・日下部貴史・曾我有可・盤若郁子：発達障害学生に対する意思表示支援のあり方に関する一考察. 全国高等教育障害学生支援協議会第4回大会ポスター発表. 2018.6.29.
- ⑥西村優紀美：発達障害学生の安定した学修を保障する修学支援～修学支援と心理サポート～. 平成30年度第56回全国大学保健管理協会東海・北陸地方部会研究集会. 2018.7.26. 静岡.
- ⑦西村優紀美：発達障害の児童生徒支援－合理的配慮の基本理解－. 野々市市教育センター主催. 対応力・指導力向上研修（発達障害）. 2018.8.22. 石川.
- ⑧西村優紀美：学習課題を抱えた学生に対する支援の在り方～支援ニーズの把握と支援プロセス～. 福岡大学医学部看護学科FD研修会. 2018.9.13. 福岡.
- ⑨西村優紀美・桶谷文哲・日下部貴史・荒木史代：自主シンポジウム「発達障害学生の移行期の支援について～高等学校から大学へのつなぎを支援する～」2018.9.22. 大阪.
- ⑩西村優紀美：第6回 成人発達障害支援研究会シンポジウム②発達障害を有する大学生（中退者、引きこもりを含む）への支援～診察室だけでは限界のある人たちへのアプローチ～「富山大学における障害学生支援の意義と実際」2018.10/27. 北海道.
- ⑪西村優紀美：富山市立堀川南小学校教育講演会「思春期の育ちと子どもへの接し方～個性的な子どもの育ちから学ぶ～. 2018.11.16. 富山.
- ⑫西村優紀美：平成30年度 昭和女子大学教職員対象障がい学生支援研修会「発達障害学生支援の実際」2018.11.21. 東京.
- ⑬西村優紀美・桶谷文哲・日下部貴史・アスカ：日本LD学会第27回大会, 自主シンポジウム、発達障害学生に対する「学ぶ・働く」を支える支援の在り方～適切な配慮とセルフ・アドボカシー～. 2018.11.23. 新潟.
- ⑭西村優紀美：平成30年度全国障害学生支援セミナー 専門テーマ別セミナー. 発達障害学生の就労を実現するための支援の在り方～意思表示支援とセルフアドボカシーを中心に～ 基調講演Ⅰ発達障害学生の就労を実現するための支援の在り方. 2018.12.5. 東京.
- ⑮西村優紀美：関西大学人権問題研究室特別講演会「発達障害学生の学修を保障する支援のあり方」2018.12.7. 大阪.

【社会活動】

- ・全国高等教育障害学生支援連絡協議会 理事
- ・独立行政法人日本学生支援機構障害学生支援委員会 委員

・石川県教育委員会 平成29年度生徒指導・発達障害サポートチーム 委員

10) 西村優紀美：障害学生に対する合理的配慮の

提供プロセスについて、平成28年度東海・北陸地区国立高等専門学校厚生補導関係主事及び学生課長会議学生支援

竹 澤 みどり

【論文】

- 1) 竹澤みどり・松井めぐみ 2018 情報通信技術を用いた親密なパートナーからの暴力尺度作成および性差の検討 学園の臨床研究, 17, 15-25.
- 2) 竹澤みどり・喜田裕子 2018 学生なんでも相談窓口における相談支援活動評価のための成果カテゴリー作成の試み 学園の臨床研究, 17, 27-34.

【学会発表】

- 1) 竹澤みどり・松井めぐみ 2018 交際相手への暴力加害に及ぼす暴力許容度の影響—情報

通信技術を用いた交際相手への暴力— 日本健康心理学会第31回大会, KPB07.

- 2) 宮前淳子・竹澤みどり・宇井美代子・寺島瞳・松井めぐみ 2018 IPV(Intimate partner violence)による被害経験と交際期間および居住形態との関連 健康心理学会第31回大会, KPB23.
- 3) 宇井美代子・宮前淳子・松井めぐみ・竹澤みどり・寺島瞳 2018 IPV(Intimate partner violence)による被害経験とジェンダー観 日本心理学会第82回大会, 2AM-130.

杉谷キャンパス

教 授 (併)	山本 善裕	Yoshihiro Yamamoto
准 教 授	岩田 実	Iwata Minoru
看 護 師	高倉 一恵	Kazue Takakura
看 護 師	野口 寿美	Hitomi Noguchi
臨床心理士(非常勤)	佐野 隆子	Takako Sano
臨床心理士(非常勤)	小倉悠里子	Yuriko Ogura
臨床心理士(非常勤)	柴野 泰子	Yasuko Shibano

【原著】

- 1) Iwata M, Hara K, Kamura Y, Honoki H, Fujisaka S, Ishiki M, Usui I, Yagi K, Fukushima Y, Takano A, Kato H, Murakami S, Higuchi K, Kobashi C, Fukuda K, Koshimizu Y, Tobe K. Ratio of low molecular weight serum adiponectin to the total adiponectin value is associated with type 2 diabetes through its relation to increasing insulin resistance. PLoS One. 2018 Mar 1;13(3):e0192609.
- 2) 岩田 実. 糖尿病家族歴は 2 型糖尿病においてインスリン分泌能低下と関連する. 学園の臨床研究. 2018 ; 17 : 1-4 岩田 実.

【総説】

- 1) 岩田 実 各種難病の最新治療情報 間脳下垂体機能障害 難病と在宅ケア 2018; Vol.24 No.8: 53-57

【学会報告】

- 1) 朴木久恵, 岩田 実, 上野麻子, 渡邊善之, 中嶋 歩, 岡部圭介, 角 朝信, 瀧川章子, 藤坂志帆, 石木 学, 八木邦公, 戸邊一之. 発症 24 年後にカベルゴリンを投与し血糖コントロールが良好となった末端肥大症の 1 例. 第 91 回日本内分泌学会学術総会; 2018 Apr 26-28 ; 宮崎.
- 2) 渡邊善之, 佐野 功, 大村佳之, 上野麻子, 中嶋 歩, 角 朝信, 岡部圭介, 瀧川章子, 藤

坂志帆, 朴木久恵, 石木 学, 岩田 実, 八木邦公, 戸邊一之. 無症候性の褐色細胞腫の一例. 第 91 回日本内分泌学会学術総会; 2018 Apr 26-28 ; 宮崎

- 3) 岩田 実, 加村 裕, 朴木久恵, 渡邊善之, 中嶋 歩, 北野香織, 上野麻子, 岡部圭介, 角朝信, 瀧川章子, 藤坂志帆, 石木 学, 福田一仁, 八木邦公, 戸邊一之. アディポネクチン三分画とメタボリック症候群の関連性の検討. 第 61 回日本糖尿病学会年次学術集会; 2018 May 24-26 ; 東京.
- 4) 朴木久恵, 岩田 実, 上野麻子, 渡邊善之, 中嶋 歩, 角 朝信, 岡部圭介, 瀧川章子, 藤坂志帆, 加村 裕, 福田一仁, 石木 学, 八木邦公, 戸邊一之. 2 型糖尿病患者におけるインクレチン関連薬使用時の CPI (F-CPR/F-BS × 100) の変化. 第 61 回日本糖尿病学会年次学術集会; 2018 May 24-26 ; 東京.
- 5) 中嶋 歩, 角 朝信, 上野麻子, 渡邊善之, 朴木久恵, 藤坂志帆, 岩田 実, 八木邦公, 戸邊一之. 入院下での強化インスリン療養 1 年後の治療を予測するために最も有用なインスリン分泌指標についての検討. 第 61 回日本糖尿病学会年次学術集会; 2018 May 24-26 ; 東京.
- 6) 渡邊善之, 大村佳之, 桑野剛英, 佐野 功, 上野麻子, 中嶋 歩, 角 朝信, 岡部圭介, 瀧川章子, 朴木久恵, 藤坂志帆, 加村 裕, 石木 学, 岩田 実, 八木邦公, 戸邊一之. ステロイド使用時における血糖変動とインスリン

- 分泌能の関連. 第61回日本糖尿病学会年次学術集会; 2018 May 24-26; 東京.
- 7) 上野麻子, 角朝信, 朴木久恵, 大村佳之, 桑野剛英, 佐野功, 中嶋歩, 渡邊善之, 岡部圭介, 瀧川章子, 藤坂志帆, 石木学, 岩田実, 和田努, 笹岡利安, 八木邦公, 戸邊一之. 高齢者における外来での随時CPIを用いたインスリン治療の必要性の評価. 第61回日本糖尿病学会年次学術集会; 2018 May 24-26; 東京.
 - 8) 桑野剛英, 朴木久恵, 上野麻子, 渡邊善之, 中嶋歩, 角朝信, 岡部圭介, 福田一仁, 藤坂志帆, 石木学, 岩田実, 八木邦公, 薄井勲, 戸邊一之. 2型糖尿病患者における持続血糖測定での血糖変動と糖尿病関連の指標との解析. 第61回日本糖尿病学会年次学術集会; 2018 May 24-26; 東京.
 - 9) 佐野功, 大村佳之, 中嶋歩, 角朝信, 朴木久恵, 石木学, 岩田実, 八木邦公, 戸邊一之. カベルゴリン治療により耐糖能異常が改善したプロラクチノーマの一例. 第61回日本糖尿病学会年次学術集会; 2018 May 24-26; 東京.
 - 10) 朴木久恵, 八木邦公, 稲川慎哉, 圓角麻子, 桑野剛英, 西村歩, 渡邊善之, 角朝信, 岡部圭介, 瀧川章子, 藤坂志帆, 石木学, 岩田実, 手丸里恵, 戸邊一之. カベルゴリン治療によってHbA1c, 肥満が改善した2型糖尿病合併のプロラクチノーマの1症例. 第39回日本肥満学会; 2018 Oct 7-8; 神戸.
 - 11) 岩田実, 朴木久恵, 圓角麻子, 瀧川章子, 渡邊善之, 西村歩, 桑野剛英, 角朝信, 岡部圭介, 藤坂志帆, 石木学, 八木邦公, 戸邊一之. 縦隔内まで進展し気管の圧迫を認めた巨大腺腫様甲状腺腫の1例. 第28回臨床内分泌代謝Update; 2018 Nov 2-3; 福岡.
 - 12) 八木邦公, 朴木久恵, 圓角麻子, 瀧川章子, 稲川慎哉, 桑野剛英, 渡邊善之, 西村歩, 角朝信, 岡部圭介, 藤坂志帆, 石木学, 岩田実, 戸邊一之. 手術加療を要した甲状腺機能亢進症5症例の心電図所見の検討. 第28回臨床内分泌代謝Update; 2018 Nov 2-3; 福岡.
 - 13) 岩田実, 高倉一恵, 野口寿美, 松井祥子, 山本善裕. 本学学生におけるBMI分類ごとの血圧, 生活習慣の特徴. 第56回全国大学保健管理研究集会; 2018 Oct 3-4; 東京.
- 【その他】**
- 1) 岩田実. 糖尿病慢性合併症1(腎症, 末梢神経障害, 網膜症). 2018年度とやま糖尿病療養指導士認定研修会; 2018 Aug 25; 富山.
 - 2) 圓角麻子, 朴木久恵, 米田徳子, 稲川慎哉, 桑野剛英, 西村歩, 渡邊善之, 角朝信, 岡部圭介, 瀧川章子, 藤坂志帆, 石木学, 岩田実, 八木邦公, 齋藤滋, 戸邊一之. 第一子の妊娠糖尿病の管理に必要であった34単位のインスリンが, 第二子妊娠時には不要であった一例. 第97回北陸糖尿病集談会; 2018 Dec 8; 金沢.
 - 3) 岩田実. 血糖コントロールに係る薬剤投与関連の基礎知識7. 各種インスリン製剤の適応と使用方法. 看護師特定行為研修区分別科目eラーニング; 2018 Jan 21; 東京.
 - 4) 岩田実. 血糖コントロールに係る薬剤投与関連の基礎知識8. 各種インスリン製剤の副作用. 看護師特定行為研修区分別科目eラーニング; 2018 Jan 21; 東京.
 - 5) 岩田実. 疾病の病態と臨床診断・治療の概論 糖尿病. 看護師特定行為研修区分別科目eラーニング; 2018 Feb 23; 富山.

高岡キャンパス

支 所 長 (併 任)	中村 滝雄	Takio Nakamura (～ H30.3.31)
分 室 長 (併 任)	堀江 秀夫	Hideo Horie (H30.4.1 ～ H30.12.31)
内 科 医 (准 教 授)	中川 圭子	Keiko Nakagawa
看 護 師	宮田 留美	Rumi Miyata
臨床心理士(非常勤)	柴野 泰子	Yasuko Shibano
臨床心理士(非常勤)	大浦 暢子	Nobuko Oura
臨床心理士(非常勤)	小倉悠里子	Yuriko Ogura

中 川 圭 子

【論文】

- 1) Tanaka S, Hirai T, Inao K, Fukuda N, Nakagawa K, Inoue H, Kinugawa K. High Cardiac Troponin I Is Associated With Transesophageal Echocardiographic Risk of Thromboembolism and Ischemic Stroke Events in Non-Valvular Atrial Fibrillation Patients. *Circ J* 2018; 82(6):1699-1704.

- 2) 中川圭子、宮田留美、松井祥子：入学時および就学 2 ヶ月後の健康調査の有用性の検討。第56回全国大学保健管理研究集会。2018,10,3-4, 東京。
- 3) 田中修平、平井忠和、福田信之、稲尾杏子、中川圭子、絹川弘一郎：心房細動患者の大動脈硬化度とバイオマーカーとの関連について。第66回日本心臓病学会学術集会。2018,9,7-9,9, 大阪。

【学会報告】

- 1) 中川圭子、平井忠和、福田信之、田中修平、稲尾杏子、絹川弘一郎：長期観察し得た非弁膜症性心房細動例のイベント発症リスクの検討。第136回日本循環器学会北陸地方会、2018,7,8, 富山。

【その他】

- 1) 中川圭子。タバコの害と禁煙について。射水市立下村小学校；2018 1, 富山。
- 2) 季刊 『ほけかん』No.68 <光療法ははじめました> そのお困り、ひかって解消。2018,3。

